

# PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	障害福祉課
事業名 総合療育センター再整備事業					課長名	柴田
					施策番号	
事業概要 施設の老朽化や障害児・者のニーズの多様化、拡大等に対応するため、北九州市立総合療育センターを再整備します。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
コスト	事業費	26年度当初予算額 64,000 千円	26年度執行額 千円	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.20 人 係長 0.20 人 職員 0.40 人
	人件費				7,300 千円	(人件費備考)

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 総合療育センターについては、老朽化等が課題となっているため、機能面及び施設面から検討を行い、再整備に向けた基本方針を定めたが、再整備を行っていくためには、より具体的な基本計画を策定する必要があります。	見直し内容 指定管理者である市福祉事業団や利用者や有識者等で構成されるアドバイザー会議などの意見を参考に、再整備基本計画の策定を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 新北九州市立総合療育センター	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 施設の老朽化や障害児・者のニーズの多様化、拡大化等の課題に対応するため、北九州市立総合療育センターの建替えを行います。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	施設の老朽化等に対応するため、再整備を行うこととし、平成30年度の開所を目指します。 成果指標は、基本計画をふまえ今後検討します。 (最終目標と目標年度) 平成30年度 開所			-	%	
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって目的を達成するか 平成30年度の開所に向けて、基本設計を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	新総合療育センターの基本設計 平成25年度に策定する基本計画に基づき、基本設計を行います。		基本設計の完了	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

				担当局	保健福祉局
				担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課
				課長名	清田
事業名	ボランティア活動促進事業				施策番号
					I - 3 - (2) - ②
事業概要	北九州市社会福祉協議会が実施しているボランティアの育成、需給調整、活動支援、関係機関との連携による情報収集・発信等のボランティア活動促進事業に対して補助しています。				<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額
		35,289 千円	千円		課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.10 人
				人件費	(人件費備考)

## 【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	ボランティア登録団体数及び登録人数は増加しており、活動成果は上がっていると考えます。社会情勢の変化等に伴い多様化する地域ニーズに対応するため、今後は、団体間の調整や地域の実態にあったボランティア活動の調整等、より効率的な活動支援が課題であると考えます。	見直し内容	ボランティア・市民活動センターの活動に対し、引き続き補助金を交付し支援することにより、NPO団体等との調整、各区ごとの実態にあったボランティアの支援や需給調整等、より効率的な活動支援を図ります。事務経費等の削減を行うことにより、事業費全体としては縮小します。
----	-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	ボランティア活動	ボランティア団体とのネットワークの構築、ボランティアに関する普及・啓発活動の実施、ボランティアの養成などを総合的に支援するとともに、地域におけるボランティアの情報収集、需給調整を行い、ボランティア活動の活性化を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	ボランティア登録団体数		増加		
	ボランティアの活性化のため、指標として掲げています。活動者の支援をしています。 (最終目標と目標年度)			%	
	ボランティア登録人数		増加		
	ボランティアの活性化のため、指標として掲げています。活動者の支援をしています。 (最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	①ボランティア活動についての相談や援助 ②ボランティアグループの育成と活動助成 ③ボランティアの養成と研修 ④ボランティア活動の登録と需給調整	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	ボランティア活動に関する相談件数		33,000 件		
	ボランティア活動の依頼や、各種事業の需給調整など、ボランティア・市民活動センターにおける相談件数を指標としました。			%	
	夏休みボランティア体験学習の参加者数		1,500 人		
	ボランティアとして活動する契機となるよう実際にボランティア活動を体験できる機会を提供する夏休みボランティア体験学習の参加者数を指標としました。			%	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、 外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課
<b>事業名</b> 社会福祉ボランティア大学校運営委託					課長名	清田
					施策番号	
<b>事業概要</b> 地域福祉活動やボランティア活動を担う人材育成に資するため、ボランティア・市民活動センターと一体となり、市民に広く研修機会を提供します。研修事業は社会福祉法人北九州市社会福祉協議会に委託しています。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
					コスト	事業費
	31,775 千円	千円		2,325 千円		係長 0.10人 職員 0.10人
					(人件費備考)	

【Action】改善		
課題	H24年度の研修受講者数は増加しており、活動成果は上がっていると考えます。社会情勢の変化等に伴い多様化するニーズに対応するため、同様の趣旨の研修を統合することなど内容を検討し、より効果的な研修の実施が課題であると考えます。	見直し内容 研修の見直し等を行い、複数回行っていた研修の回数を減らす等、効率化を行います。このことにより、事業費全体としては縮小します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域福祉を担う人材	人材育成・強化を図るための各種研修事業を実施し、地域住民の福祉に対する知識の向上や、住民参加で福祉サービスの利用者を支える仕組みづくりを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	ボランティア大学校の研修の受講者数(単年度)				
	市内のボランティアの育成に関して、一定程度の研修機会を提供できたかを計るため、受講者数を指標とします。  (最終目標と目標年度) 2,400人(毎年度)		2,400 人	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 研修事業ごとの開催回数及び日数については研修事業計画のとおり行っています。その他、研修の実施内容については、その都度市と受託者が協議して実施しています。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	ボランティア大学校の研修・講座の開催回数				
	ボランティア活動等を担う人材の育成や、スキルアップを図るため、ボランティア大学校で開催する各種研修等の回数を指標とします。		38 回	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
<b>事業名</b> 権利擁護・市民後見促進事業					課長名	野瀬
					施策番号	
<b>事業概要</b>	弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。				<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額 7,712 千円	26年度執行額 千円	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05 人 係長 0.10 人 職員 0.20 人
					人件費	3,075 千円 (人件費備考)

【Action】改善		
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 高齢化の進行や、認知症高齢者数の増加に伴い、第三者後見人の不足が見込まれます。さらに、後見人の担い手として養成研修を行い、安定した成年後見制度の推進を図る必要があります。	<b>見直し内容</b> 引き続き養成研修を行うとともに、研修修了者の活躍の場を確保するため法人後見の補助を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 判断能力が不十分な高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 権利が守られる状態にする。そのために担い手を育成し権利を守るサービスを提供します。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	法人後見受任件数(年度末件数)		維持	%	
	市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが現状困難な為、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)				%

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民後見人養成数(累計)		増加	%	
	社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行っていくことで、成年後見制度の担い手を増やしていけるため。				%

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
<b>事業名</b> 年長者研修大学校及び北九州穴生ドーム運営事業					課長名	野瀬
					施策番号	
<b>事業概要</b> 年長者研修大学校(周望学舎・穴生学舎)及び北九州穴生ドーム、並びに生涯現役夢追塾の運営を行います。					<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
						(人件費備考)
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05人
		154,348 千円	千円		4,825 千円	係長 0.20人 職員 0.30人

【Action】改善		
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 高齢者の生きがいづくりや仲間づくり、地域活動、ボランティア等の促進を図るためには、施設の利用者数を増加させる必要があります。	<b>見直し内容</b>
平成26年度からの指定管理の更新に合わせ、カリキュラムの見直しや募集PRの強化等を行い、利用の促進を図ります。		

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 高齢者(概ね60歳以上)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 教養、健康、趣味、レクリエーション等の生きがいづくりや健康づくりを促進するとともに、地域活動を担う高齢者の人材育成を図ります。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	高齢者の生きがいづくり、社会参加の促進		高齢者の生きがいづくりや仲間づくり、及びボランティア活動等の促進	%	
	教養、健康等の講座を通じた高齢者の生きがいづくりや仲間づくりを進めるとともに、地域活動の講座を通じたボランティア活動等の促進を目指します。 (最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 高齢者の生きがいづくり、健康づくり、地域活動を担う人材育成のためには、当事業は重要であると考えています。今後とも、講座内容等を適宜見直していくなど、事業の目的に沿った運営を図っていきます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	延べ利用者数		増加	%	
	研修コース、利用者数だけでなく、ボランティア、同好会活動等の利用者も加えることにより、高齢者の生きがいづくりや健康づくり、人材育成の総合的な目安としています。		増加	%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局	
		担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課	
		課長名	清田	
事業概要	いのちをつなぐネットワーク事業	施策番号		
		II - 1 - (1) - ①		
事業概要	住民と行政の力を結集し、地域における既存のネットワークや見守りの仕組みを結び付け、セーフティネットの網の目を細かくすることによって、高齢者のみならず、支援を必要としている人が社会的に孤立することがないよう地域全体で見守り、必要なサービス等につなげていく取組みです。			<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
				事業手法 ( )
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)
		10,680 千円	千円	
		目安の金額	課長 0.30 人	(人件費備考)
		172,200 千円	係長 16.50 人 職員 0.50 人	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	引き続き、出前講演による啓発や地域団体・民間企業等が参加するいのちをつなぐネットワーク推進会議を開催し、全市的な取り組みを推進する必要があります。また、支援が必要な人に関する地域からの個別相談に対しては、区役所内部の連携及び関係機関との協力により、行政サービスにつないだり、地域による見守り活動を支援する必要があります。	見直し内容 さらに地域福祉ネットワークの網の目を細かくしていくことを目標とすると共に、より多くの市民が孤立することのない地域社会を推進するために、自助・共助の啓発に力を入れます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域の高齢者等の支援を必要としている人	地域の見守りや支援の網の目に結び付け、社会的に孤立することがないようにしたい。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	いのちをつなぐネットワーク推進会議の参加団体数	47 団体	55 団体	%	
	地域福祉活動を積極的に支援するとともに、活動を広めたり、活動者間の連携を促進するなど、活動しやすい環境づくりに取り組みます。これにより、支援を必要とする人が地域の中で孤立しない、地域の見守り体制づくりを目指します。 (最終目標と目標年度)平成28年度65団体				
(最終目標と目標年度)					

活動計画	どうやって目的を達成するか	出前講演による啓発や地域団体・民間企業等が参加するいのちをつなぐネットワーク推進会議を開催し、全市的な取り組みを推進します。支援が必要な人に関する地域からの個別相談に対しては、区役所内部の連携及び関係機関との協力により、行政サービスにつないだり、地域による見守り活動を支援します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	地域会合への参加(回数)	回	維持	%	
	事業啓発のために、出前講演を行ったり、地域の会合に参加し意見交換や情報提供を行う等地域福祉活動を支援しています。				

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>				担当局	保健福祉局
				担当課	監査指導課
<b>事業名</b> 北九州市保健福祉オンブズパーソン事業				課長名	青柳
				施策番号	
<b>事業概要</b> 市が実施し又は所管する保健福祉サービスに関する利用者及び利用希望者からの苦情を、中立かつ公正な第三者(保健福祉オンブズパーソン)が面談し、市の機関へ調査や報告を求めてその内容を審理し、不当な点があればその是正を勧告するなどの苦情処理を行います。 保健福祉オンブズパーソンは、人格が高潔で社会的信望が厚く、保健福祉、法律等に関し優れた識見を有する者のうちから、市長が任命しています。 当事業は、既存の苦情処理制度である広聴制度(市民のこえ、市長への手紙)や法定救済制度(行政不服審査制度、行政事件訴訟制度)を補完するものです。				<b>事業手法</b> ■ 直営    □ 補助金 □ 全部委託   □ 負担金 □ 一部委託   □ 指定管理 □ その他 ( )	
				<b>コスト</b> 事業費 26年度当初予算額    26年度執行額 (事業費備考) 1,095 千円                      千円	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 本事業において、苦情申立ては実名で申請する必要がありますが、匿名での相談も多くみられます。苦情申立てや苦情相談について、一層丁寧な事業説明や対応により、公正で信頼される保健福祉行政の推進に努めていく必要があると考えます。	<b>見直し内容</b>	公正で信頼される保健福祉行政の推進に向けて保健福祉サービスに関する苦情の解決を図るため、各区での巡回相談会やホームページ、ポスター、パンフレット等によるPRを実施します。また、病気・障害等により事務局へ相談に来ることができない場合、事務局が訪問して相談を伺うこともあります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	<b>対象</b> (誰を、何を) 市が実施し又は所管する保健福祉サービスに関する利用者及び利用希望者からの苦情	<b>目指す状態</b> (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 中立かつ公正な第三者である保健福祉オンブズパーソン(弁護士、大学教授、社会福祉士など)を通じて、簡易かつ迅速に苦情を処理することにより、利用者等の権利及び利益を保護し、保健福祉サービスの質の確保を図るとともに、公正で信頼される保健福祉行政を推進します。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 公正で信頼される保健福祉行政を推進する	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	<b>成果の状況評価理由</b>
	保健福祉サービスの質の確保を図るとともに、公正で信頼される保健福祉行政を推進します。 (最終目標と目標年度)		公正で信頼される保健福祉行政の推進	—	
				%	
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	公正で信頼される保健福祉行政を推進するため、保健福祉サービスに関する苦情の解決を図ります。また、各区での巡回相談会やホームページ、ポスター、パンフレット等によるPRも実施します。 実施方法は、中立かつ公正な立場で委嘱されたオンブズパーソンによる苦情解決や事業のPRを、市が直接実施します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 相談受付件数	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	<b>活動の状況評価理由</b>
	保健福祉サービスに関する苦情や相談を解決し、公正で信頼される保健福祉行政の推進を図ります。		簡易かつ迅速な処理	%	
	巡回相談会の実施		12 回	%	
	保健福祉オンブズパーソン事業を推進するため、各区を巡回する相談会を実施します。			%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局	
					担当課	保護課	
<b>事業名</b> 生活保護受給者に対する自立支援事業					課長名	齋村	
					施策番号		II - 1 - (1) - ①
<b>事業概要</b>	多様で複雑な問題を抱える生活保護受給者に対し、それら問題を解決し少しでも早く生活保護から自立できるように、就労支援プログラム等の各種自立支援プログラムを活用し、専門的に支援する職員(専門員)を各区に配置するなど、福祉事務所における自立支援体制を整えて、支援を行います。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
						(人件費備考) ( )	
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.50人
		165,183 千円	千円			10,750 千円	係長 0.50人 職員 人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	H24年度は就職者等において、前年度比で約1.2倍の成果を得るなど順調に成果をあげています。一方で課題となっている就労意欲に乏しい対象者の割合が大きくなっています。	見直し内容 平成24年度に小倉北でモデル実施した意欲喚起事業を、平成25年度から全区に展開し支援を行っています。今後は、通常のカウンセリングや職業紹介とあわせ、ハローワークとの連携を更に進め、効果的な自立支援を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	多様で複雑な問題を抱えている生活保護受給者	少しでも早く生活保護から自立できるように、自立支援体制を整え、効果的な自立支援を行います。				
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	就職者数、就労自立(保護廃止)			被保護者の自立促進		
	一人でも多くの就職者を出し、経済的自立に向けて支援することが重要です。 (最終目標と目標年度)				%	
	効果額(保護費削減額)			被保護者の自立促進		
効果額は、就職による保護費削減効果です。就労収入による削減効果と廃止(生活保護からの自立)による削減効果の二つがあります。 (最終目標と目標年度)			%			

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	経済雇用状況がまだまだ厳しい中、生活保護受給者がその能力を十分に活用し、自立を図るために、就職に必要な書類の書き方、面談技法等を学ぶセミナー開催や就労体験など、課題となっている就労意欲に乏しい対象者に対し、就労意欲喚起事業を全区で実施します。また、対象者に適合した求人提供を確実に伝える求人開拓の専門員やキャリアカウンセラーを配置するほか、ハローワークとの連携をさらに進めるなど、支援体制を整えて、自立支援を推進します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	自立支援プログラム活用数			4,500 件		
	生活保護受給者が経済的に自立するためには、まず、自立支援プログラムの活用を積極的に行う必要があります。				%	
	就労支援専門員等の配置数			32 人		
就労支援に関する豊富な経験と知識を持った専門員を配置し、福祉事務所における自立支援体制を整える必要があります。			%			

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局						
		担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課						
		課長名	清田						
事業名	民生委員活動支援事業			施策番号	II - 1 - (1) - ①				
				事業概要		■ 直営 ■ 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長	0.30人	
		158,589 千円	千円			45,450 千円	係長	2.40人	
								職員	2.40人

【Action】改善	
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 民生委員のなり手不足や民生委員自身の高齢化、また、高齢者の増加による業務量の増大などに対して、今後どのように民生委員の負担を軽減していくかなどが課題です。
見直し内容	民生委員の負担を軽減するため、表彰制度の充実、民生委員の増員、民生委員と福祉協力員との連携強化、自治会・町内会の加入促進、民生委員への情報提供の充実、民生委員に対する支援の充実、民生委員を支援する体制の強化を「7つの取り組み」として重点的に取り組んでいます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地区内の生活に困窮している人、児童、心身障害(児)者、高齢者など、援護育成を必要とする者	いのちをつなぐネットワークなどと連携し、支援が必要な人が孤立することなく必要な支援を受けられる安全で安心なまちを目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	相談・支援件数		相談・支援件数の維持		
	民生委員の活動のうち活動記録に記載する相談・支援件数の維持を目標とします。 (最終目標と目標年度)			%	
	充足率		充足率の維持		
	民生委員の定数に対する充足率を目標とします。 (最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 民生委員になるべく負担がかからないように配慮しつつ、相談・支援件数を維持できるようにします。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	民生委員活動の充実を目指します。		民生委員活動の充実		
	民生委員の負担軽減に向けた研究結果を踏まえ、活動支援、研修、広報を通じ、民生委員活動の充実を目指します。			%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

担当局	保健福祉局
担当課	保健医療課
課長名	山本
施策番号	
II - 1 - (2) - ①	
事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金
	<input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金
	<input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理
	<input type="checkbox"/> その他
( )	

事業概要					
事業名	救急医療体制の維持・確保				
事業概要	夜間や休日における救急医療体制の維持・確保をします。				
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
		1,097,355 千円	千円		目安の金額
					課長 4.30 人
					係長 17.70 人
					職員 8.70 人
					(人件費備考)

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 救急医療体制の維持・確保にあたっては、継続的な医師確保が重要な課題となっており、医師会や大学病院等医療関係機関の協力が欠かせない状況となっています。 また、救急医療を実施している医療機関では、医師や医療スタッフの確保など人的・経済的な負担が大きいため、輪番制による二次応需体制など負担軽減に資する体制確保や財政的支援を継続的に行う必要があります。	見直し内容 引き続き、市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられるよう初期から三次までの救急医療体制を維持していきます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	救急医療体制	市民が夜間や休日においても、安心して医療を受けられる体制の維持・確保		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)
	救急医療体制の維持 夜間・休日急患センター・休日急患診療所の運営、テレフォンセンターにおける病院紹介や医療相談業務、深夜帯の初期救急体制の整備、眼科・耳鼻咽喉科の初期救急医療体制の整備、二次応需体制の整備など、初期から三次までの救急医療体制の整備を医師会や市内病院の協力のもと実施します。 (最終目標と目標年度)		維持	%
	(最終目標と目標年度)			%

活動計画			活動の状況	
活動計画	どうやって目的を達成するか 全国的な医師不足が続いており、本市においても救急医療の維持確保は困難な状況にありますが、引き続き、救急医療体制の維持確保に努めます。また、テレフォンセンターにおいてテレフォン相談員による医療相談、市内の病院紹介等を行います。さらに、救急医療体制、適正受診、かかりつけ医等について市民の理解向上等のため、啓発活動を推進します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)
	救急医療体制の確保 全国的な医師不足が続いており、本市についても救急医療に携わる医師等の確保は厳しい状況にあります。急患センター出務医師や二次救急医療協力病院などを確保していくため、医師会をはじめとする関係機関との連携を図り、救急医療体制の確保に努めます。		医師会をはじめとする関係機関との連携を図り、救急医療体制を確保	%
	適正受診等の啓発 救急医療体制の維持・確保のため、市政だよりや民間が発行する情報誌等により、適正受診(昼間に受診する時間がないなどの個人的な事由によらず、真に救急医療が必要な方が受診)等の促進を図るよう啓発に努めます。		救急医療体制の維持・確保のため、適正受診等の促進を図る啓発を実施	%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	保健医療課
<b>事業名</b> 小児医療先進都市づくり事業					課長名	山本
					施策番号	
<b>事業概要</b> 小児救急医療体制の充実を図るとともに、小児医療体制に関する先進都市を目指します。					<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費		目安の金額
	3,030 千円	千円			2,900 千円	係長 0.10人 職員 0.10人

## 【Action】改善

課題	H24年度の 評価結果 を受けての 課題	本市が、小児医療の先進都市を目指していくためには、今後も、小児医療に関する関係者と連携し、小児医療における様々な課題の検討を行うことが必要であり、また、これらの取り組み状況を市内外の医療関係者等にアピールしていく必要があります。また、小児医療関係者の資質の向上を目指す必要があるため、ワークショップの研修内容などについて見直しを行っていく必要があります。	見直し内容	引き続き、小児救急医療における様々な課題について検討を行うため、昨年と同規模の予算で小児救急ネットワーク部会を開催するとともに、医師・看護師の資質の向上のためのワークショップの内容、開催時期などについて見直しを図ります。
----	-------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	小児医療	小児救急をはじめ、虐待防止、臓器移植など小児医療に関する先進的な取り組みの充実を目指します。				
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況 評価理由	
	小児救急医療の先進都市づくり		維持	%		
	本市はこれまでも、小児救急医療体制の充実に取り組んでおり、今後も小児医療関係者と協議を行い、小児救急をはじめ、虐待防止、臓器移植など小児医療に関する先進都市を目指します。 (最終目標と目標年度)			%		
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	どうやって 目的を達成するか	小児救急医療における様々な課題について検討を行うため、小児救急ネットワーク部会を開催するとともに、医師・看護師の資質の向上のためのワークショップを開催しています。また、引き続き本市の取り組みについてPRを行っていきます。さらに、新型インフルエンザが発生した場合には、これまでの取り組みを活かし、早急かつ効果的な対応ができる小児救急医療体制の整備に努めます。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)		
活動指標	小児先進都市づくり会議等の開催		小児医療の先進都市を目指すため、先進都市づくり会議等を開催します	%		
	小児救急センターや小児救急ネットワーク体制の維持確保や更なる充実を図るとともに、小児科医の確保やかかりつけ医の定着促進などについて協議を行い、小児医療の先進都市を目指します。このため、先進都市づくり会議や、この部会である小児救急ネットワーク部会を開催します。		医療関係者の技術の向上を図り、本市の取り組みをアピールするためワークショップを開催します	%		
	小児救急医療ワークショップの開催等			%		
	小児救急医療に携わる医師、看護師等を対象に、実践的な手技手法が学べるワークショップを開催し、関係者の技術の向上を図るとともに、本市の小児医療に関する取り組みを市内外の医療関係者等にアピールします。			%		

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

# P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局	
					担当課	保健医療課	
産婦人科・小児科臨床研修医等支援事業					課長名	山本	
					施策番号		II - 1 - (2) - ①
事業名	産婦人科・小児科臨床研修医等支援事業					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
事業概要	産婦人科・小児科医師の確保を支援するための事業への助成を行います。						
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額		課長 0.10人
	10,000 千円	千円			2,900 千円		係長 0.10人 職員 0.10人

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 本事業を利用した研修医はその後市内医療機関に勤務しており、医師確保策として一定の成果を上げていますが、毎年、研修医の確保に苦慮しています。そのため、事業の内容などについて検討する必要があります。	見直し内容 研修医が確保できるよう、魅力ある研修内容や効果的な周知方法などについて見直しを図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	周産期医療及び小児救急医療	全国的な医師不足が続いており、その中で特に不足している産婦人科、小児科医師などの確保を支援していく必要があります。このため、北九州市医師会が行う医師確保に関する事業へ助成を行い、周産期医療及び小児救急医療の安定的な提供や充実に寄与していきます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	産婦人科、小児医師の確保		産婦人科、小児科医師などの確保にかかる事業を支援します	%	
	周産期医療及び小児救急医療を安定的に提供していくため、産婦人科、小児科医師などの確保にかかる事業を支援していきます。 (最終目標と目標年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 全国的に産科医師が減少し、分娩できる医療機関も減少しています。このため、本市における周産期に関わる連携体制の維持確保に努めます。また、これらの体制を維持するために、引き続き、北九州市医師会が実施する後期臨床医への研修等に助成を行うとともに、これらの医師確保事業のPRIにも努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	後期臨床研修医への支援		後期臨床研修への助成を行い、安定的な医師確保に努めます	%	
	北九州市医師会が、産婦人科及び小児科の医師を対象に、市内の複数の医療機関で実施する後期臨床研修への助成を行い、これら医師の定着を図り、安定的な医師確保に努めます。なお、これら研修を受けた研修医は、その後、市内の医療機関に勤務しており、定着化に効果を示しています。			%	
	医療講習会等の開催 北九州市医師会が医療関係者の知識の向上を図るために開催する周産期医療や小児救急医療に関する講習会や、周産期医療体制について検討する協議会等への助成を行い、周産期医療等の充実に努めます。		講習会や協議会等への補助を行い、周産期医療等の充実に努めます	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	保健医療課
<b>事業名</b> 感染症対策推進事業					課長名	城戸
					施策番号	
<b>事業概要</b> 感染症に係る基盤整備、指導・相談や関係機関との連携活動等を行い、感染症の発生、まん延防止の施策を行うものです。					<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
					コスト 事業費 26年度当初予算額      26年度執行額 (事業費備考) 3,977 千円                      千円	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 研修会開催については、対象者が幅広く、漠然とした感染症予防対策の内容や例年と同様の内容になってしまう傾向が見られます。	<b>見直し内容</b>	対象者選定、講演内容の工夫、感染症発生動向等から最新情報をタイムリーに提供する方法等を見直します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民 市内医療機関 医療従事者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 市内における感染症の発生予防、早期発見及び拡大防止。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	健康危機管理の整備・強化		健康危機管理の整備・強化		
	感染症に関する知識の普及及び感染症対策を推進するための人材育成を図ることにより感染症対策支援ネットワークの強化を行い、市内の感染症の発生やまん延防止に取り組みます。 (最終目標と目標年度)			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか ①感染症対策指導者養成研修会 ②院内感染対策研修会 ③感染性胃腸炎の感染防止対策研修会(保育所・高齢者施設等) ④九州・山口九県感染症関係連絡会議(輪番制により本市にて平成26年度開催予定)	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	感染症予防研修会参加施設数		270 施設		
	各研修会における参加施設数			%	
				%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	保健医療課
<b>事業名</b> 新型インフルエンザ対策事業					課長名	城戸
					施策番号 II - 1 - (2) - ②	
<b>事業概要</b> 平成21年4月に発生した新型インフルエンザ(A/N1H1)対策を踏まえ、今後の再流行や新たな新型インフルエンザ等の発生に備えた検討などを行い、必要な対策の充実を図るものです。					<b>事業手法</b> <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
<b>コスト</b>	<b>事業費</b>	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.30人
		7,012 千円	千円		8,700 千円	係長 0.30人 職員 0.30人

(人件費備考)担当課のみ。ただし、担当課以外にも危機管理室、保健所、各区保健福祉課など多くの関係部署が関わっています。

## 【Action】改善

<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	危機管理において必要となる市民や関係機関への情報提供について、情報伝達方法の確認や医療機関間での情報の共有化等を行うなど、より効率的・効果的な実施体制を検討する必要があります。	<b>見直し内容</b>	本市行動計画策定に伴ない、北九州市新型インフルエンザ対策マニュアル(平成25年度改定予定)に沿って、関係機関との協力・連携を強化します。また、医療体制を再整備する上で必要な備蓄品の見直し、補充を行います。
-----------	-------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【Plan】計画

<b>目的</b>	<b>対象(誰を、何を)</b>	市民	<b>目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)</b>	新型インフルエンザによる市民の感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避ける。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	<b>指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載)(上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</b>	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)		成果の状況評価理由
<b>代表的な成果指標</b>	新型インフルエンザの発生に備えた対策 新型インフルエンザによる市民の感染を最小限に抑えるとともに、発生段階や発生状況に応じた医療体制や相談体制の再整備を行います。社会的な混乱をさけるため、市民への啓発や情報提供などにも取り組めますが、成果を数値で表すことは困難です。 (最終目標と目標年度)		新型インフルエンザによる市民の感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、医療体制や相談体制の再整備、市民への啓発や情報提供などを行う	%		
	(最終目標と目標年度)			%		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 本市行動計画策定に伴ない、改定した北九州市新型インフルエンザ対策マニュアル(平成25年度改定予定)に沿って関係機関との協力・連携を図り、市民への周知や情報提供を実施します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載)(上段:指標名 下段:指標の説明)</b> 関係機関との協力・連携の強化、医療体制の再整備 平時から、感染症情報ネットワーク等を通じて情報提供を行い、連携を強化します。また、医療体制を再整備する上で必要な備蓄品の見直し、補充を行います。	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民への啓発や情報提供の継続実施		年間20回	%	
	新型インフルエンザを始めとした様々な感染症から、市民への感染を最小限に抑えるとともに、社会的な混乱を避けるため、市政だより、新聞、テレビ等の様々な媒体を通じて、市民に対する啓発や情報提供を行います。			%	

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>				担当局	保健福祉局	
				担当課	生活衛生課	
<b>事業名</b> 食の安全安心確保推進事業				課長名	永富	
				施策番号		II - 1 - (2) - ③
<b>事業概要</b> 食品衛生法においては、「正しい知識の普及」「情報の収集・提供等」「施策の策定にあたっての住民意見の施策への反映」「施策の実施状況の公表及び意見の聴取」「関係者相互間の情報及び意見の交換の促進」等の自治体を実施すべきリスクコミュニケーションに関する事項を規定しています。 本事業において、食品の安全を確保することにより住民の健康保護を図ることを目的に、リスクコミュニケーションを実施します。				<b>事業手法</b> <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	目安の金額	課長	0.05人
		1,042 千円	千円		係長	0.10人
				人件費	6,825 千円	
				(事業費備考) (人件費備考) 左記は担当課のみ。その他に保健所等の多くの職員が事業に携っています。		

【Action】改善		
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 より経済性の高い手法を検討し、低コスト化を図る必要があります。	<b>見直し内容</b> リスクコミュニケーションの開催内容を見直し、経費の効率的運用を図ることとしました。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	消費者	食品安全に関する正しい知識・情報の提供を通じて、消費者の衛生意識の向上を図り、食の安全・安心を確保します。				
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	消費者への食品安全に関する正しい知識・情報の提供			消費者へ食品安全に関する正しい知識・情報を提供します。		
	食品安全に関する正しい知識・情報の提供を通じて、消費者の衛生意識の向上を図り、食の安全・安心を確保します。 (最終目標と目標年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 消費者を対象とした衛生講習会を通じて食品安全に関する正しい知識・情報の提供を図るとともに、市民意見を取り入れた食品衛生監視指導計画を策定・公表することで、消費者への食品衛生への関心を高めることにつなげます。			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	消費者対象講習会等への参加者数			1,400 人		
	食中毒予防や残留農薬等食品の安全性についての講習や意見交換を目的として消費者を対象とした衛生講習会を開催し、その参加者を増やすことで施策の実現につなげます。				%	
	北九州市食品衛生監視指導計画の策定及び実施 北九州市食品衛生監視指導計画を市民意見を取り入れ毎年度策定し、実施結果を公表し、市の食品の安全安心に関する取組み(監視指導、検査及びリスクコミュニケーション等)を周知することで食品衛生の関心を高め、衛生講習会等への参加者の増加に努めます。			策定及び実施	%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局	
					担当課	生活衛生課	
					課長名	永富	
					施策番号		II - 1 - (2) - ③
事業名	食中毒予防総合対策事業						
事業概要	食中毒発生時の迅速な原因究明による健康被害の拡大防止や流通食品の汚染実態調査等により、食中毒の総合的な予防対策を実施します。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10人
		2,000 千円	千円			7,650 千円	係長 0.20人 職員 0.60人
						(人件費備考) 左記は担当課のみ。その他に保健所等の多くの職員が事業に携っています。	

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	より経済性の高い手法を検討し、低コスト化を図る必要があります。	見直し内容 検査施設の機器整備費用を見直し、経費の効率的運用を図ることとしました。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	食品等事業者	保健所の食品等事業者に対する指導、衛生講習会等の実施を通じて、食品加工・調理・提供する側の衛生意識の向上を図り、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、市民の健康の保護に繋がります。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	食品等事業者の衛生意識の向上		食品等事業者の衛生意識の向上を図ります。	%	
	保健所の食品等事業者に対する指導、衛生講習会等の実施を通じて、食品加工・調理・提供する側の衛生意識の向上を図り、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、市民の健康の保護に繋がります。 (最終目標と目標年度)				%

活動計画	どうやって目的を達成するか	食品等事業者を対象とした衛生講習会を開催します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	食品等事業者対象講習会への参加者数		6,100 人	%	
	食中毒の発生を防ぐため、食品等事業者における自主的な衛生管理向上を図る講習会を実施します。			%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>				担当局	保健福祉局		
				担当課	高齢者支援課		
<b>事業名</b> 年長者研修大学校及び北九州穴生ドーム運営事業				課長名	野瀬		
				施策番号		II - 2 - (1) - ①	
<b>事業概要</b> 年長者研修大学校(周望学舎・穴生学舎)及び北九州穴生ドーム、並びに生涯現役夢追塾の運営を行います。				事業手法			
				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額 154,348 千円	26年度執行額 千円	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05人 係長 0.20人 職員 0.30人	(人件費備考)
	人件費				4,825 千円		

## 【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題 高齢者の生きがいがづくりや仲間づくり、地域活動、ボランティア等の促進を図るためには、施設の利用者数を増加させる必要があります。	見直し内容	平成26年度からの指定管理の更新に合わせ、カリキュラムの見直しや募集PRの強化等を行い、利用の促進を図ります。
----	--------------------------------------------------------------------------------------	-------	---------------------------------------------------------

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	高齢者(概ね60歳以上)	教養、健康、趣味、レクリエーション等の生きがいがづくりや健康づくりを促進するとともに、地域活動を担う高齢者の人材育成を図ります。				
代表的な成果指標	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	高齢者の生きがいがづくり、社会参加の促進			高齢者の生きがいがづくりや仲間づくり、及びボランティア活動等の促進	%	
	教養、健康等の講座を通じた高齢者の生きがいがづくりや仲間づくりを進めるとともに、地域活動の講座を通じたボランティア活動等の促進を目指します。 (最終目標と目標年度)				%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)			活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	高齢者の生きがいがづくり、健康づくり、地域活動を担う人材育成のためには、当事業は重要であると考えています。今後とも、講座内容等を適宜見直していくなど、事業の目的に沿った運営を図っていきます。	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		25年度実績		
活動指標	延べ利用者数				%	
	研修コース、利用者数だけでなく、ボランティア、同好会活動等の利用者も加えることにより、高齢者の生きがいがづくりや健康づくり、人材育成の総合的な目安としています。		増加		%	
	ボランティア活動による延べ利用者数  地域活動を担う高齢者の育成に関する指標として、利用状況の中でもボランティア活動による利用者数を目安としています。		増加		%	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
<b>事業名</b> 権利擁護・市民後見促進事業					課長名	野瀬
					施策番号	
<b>事業概要</b>	弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。				<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05人
		7,712 千円	千円		3,075 千円	係長 0.10人 職員 0.20人
					(人件費備考)	

【Action】改善		
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 高齢化の進行や、認知症高齢者数の増加に伴い、第三者後見人の不足が見込まれます。さらに、後見人の担い手として養成研修を行い、安定した成年後見制度の推進を図る必要があります。	<b>見直し内容</b> 引き続き養成研修を行うとともに、研修修了者の活躍の場を確保するため法人後見の補助を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 判断能力が不十分な高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 権利が守られる状態にする。そのために担い手を育成し権利を守るサービスを提供します。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	法人後見受任件数(年度末件数)		維持		
	市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが現状困難な為、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)				%
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民後見人養成数(累計)		増加		
	社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行っていくことで、成年後見制度の担い手を増やしていけるため。				%
				%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	いのちをつなぐネットワーク推進課
<b>事業名</b> 地域包括支援センター運営事業					課長名	清田
					施策番号	
<b>事業概要</b> 地域包括支援センターは、高齢者の保健・医療・福祉の総合相談窓口です。高齢者が元気な状態から要介護状態となっても住み慣れた地域での生活を継続していくために、地域における高齢者の実態を把握し、早期に必要なサービスにつなぐなど、地域全体を包括的にケアしていくためのネットワークの拠点として介護保険法により位置づけられた施設です。	<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )					
	<b>コスト</b> 事業費	26年度当初予算額 839,903 千円	26年度執行額 千円	(事業費備考)	人件費	目安の金額 26,150 千円

【Action】改善			
<b>課題</b> H24年度の評価結果を受けての課題	平成24年度も高齢者の総合相談窓口として、市内24箇所地域包括支援センター、各区で統括支援センターを運営しています。高齢者が増加する状況においても、地域包括支援センターが様々な相談に迅速で適切に対応するため、体制づくりや機能確保のための適宜見直しが必要と考えます。	<b>見直し内容</b> 高齢者人口や地域包括支援センターの対応状況を踏まえ、専門職員を増員するなど支援体制・相談機能の強化を図ります。人員増員のための必要な予算は確保しつつ、業務の効率化とともに経費を適宜確認し、予算の見直しに努めます。	

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b> 高齢者	<b>対象</b> (誰を、何を) 高齢者	<b>目指す状態</b> (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 地域包括支援センターにおいて、高齢者権利擁護・虐待防止、認知症対策や介護予防などの課題に迅速で適切に対応し、高齢者が地域で安心して生活できる状態にします。		<b>成果の状況</b> 代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 地域包括支援センターの利用時の職員対応に満足している在宅高齢者の割合 高齢者が地域で安心して生活できているかを「北九州市高齢者等実態調査」の「地域包括支援センターの利用時の職員対応に満足している在宅高齢者の割合」を指標として設定します。 (最終目標と目標年度)80%(26年度)	25年度実績	26年度目標 増加	26年度実績(達成率) %
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b> どうやって目的を達成するか	高齢者が地域で安心して生活できるよう、地域包括支援センターの支援体制の整備や相談機能の強化を推進し、高齢者権利擁護・虐待防止、認知症対策や介護予防などの課題に迅速・適切に対応します。	<b>活動の状況</b> 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 地域における啓発活動	25年度実績	26年度目標 維持	26年度実績(達成率) %	活動の状況評価理由
	民生委員児童委員地区協議会や自治連合会等に地域包括支援センターの職員が出向き、地域とのネットワークの構築を進めます。			%	
	地域包括支援センター相談件数 地域包括支援センターの相談件数等状況を分析することで、地域包括支援センターの業務内容や対応状況等を把握し、相談体制の強化に努めます。		維持	%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b> 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
<b>事業名</b> 高齢者住宅等安心確保事業					課長名	野瀬
					施策番号	
<b>事業概要</b>	ふれあいむら市営住宅や高齢者向け優良賃貸住宅に入居する高齢者に対し、生活援助員を派遣し、入居者の安全かつ快適な生活環境を確保します。					<b>事業手法</b> <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
事業費	24,500 千円	千円		人件費	1,740 千円	(人件費備考)

【Action】改善		
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 当該住宅内で、生活相談・安否確認・一時的な家事援助・緊急時の対応・要介護時の連絡調整を行うことにより、入居者が住み慣れた地域で安心して生活が営めているものと考えています。	<b>見直し内容</b> ひきつづき、入居者の安全かつ快適な生活環境を確保します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) ふれあいむら市営住宅や高齢者向け優良賃貸住宅(30戸以上)に入居する高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 生活援助員が、生活相談や定期的な安否確認などの各種サービスを提供するとともに、緊急通報システムによる緊急対応を行うなどにより、安全かつ快適な在宅生活を確保します。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	入居者の快適な生活の確保		生活援助員を派遣することで、入居者の快適な生活を確保します。	%	
	住宅計画課が高齢者優良賃貸住宅として決定した対象住戸に援助員を派遣し、見守りなどのサービスを提供することで、入居者の安全かつ快適な在宅生活を確保しています。 (最終目標と目標年度)				%

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか ふれあいむら市営住宅160戸、高齢者向け優良賃貸住宅162戸で高齢者住宅の安心確保事業を行います。			<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	対象戸数		維持	%	
	ふれあいむら市営住宅及び高齢者向け優良賃貸住宅に、高齢者の安否確認や生活相談等を行う生活援助員を派遣し、高齢者の安心を確保します。				%

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局	
		担当課	介護保険課	
		課長名	横山	
		施策番号		
		II - 2 - (1) - ③		
事業名	介護サービス等給付費(介護保険サービスの提供(在宅サービスの提供))			
事業概要	高齢者が住み慣れた地域で、能力に応じて自立した日常生活を営むことが出来るよう、訪問介護・通所介護などの在宅サービス・地域密着型サービスの提供を行います。			事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)
		40,167,356 千円	千円	
		目安の金額	課長	人
		0 千円	係長	人
			職員	人
(人件費備考) 直接関わる職員以外に、多くの事業者が関わっています。				

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 平成24年度に引き続き、高齢化の進展を注視しながら介護が必要になってもホームヘルプサービスなどの介護保険サービスが利用できるよう支援を行っていく必要があります。	見直し内容 ほぼ計画通りに進捗していることから、今年度も同様に計画に沿って支援を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 65歳以上の高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 今後も高齢化の進展が予想されるなか、高齢者が介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるよう介護保険サービスを提供していきます。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	在宅サービスの利用人数	-	31,018 人		
	介護が必要な人にホームヘルプサービスやデイサービスなどの在宅サービスが安定的に供給されるよう、引き続き取り組んでいきます。 (最終目標と目標年度)平成26年度:31,018人(年平均)				%
	(最終目標と目標年度)				%

活動計画	どうやって目的を達成するか 介護を必要とする人に適切なサービスが提供されるよう取り組みます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	介護給付の適正実施		介護給付の適正実施		
				%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	介護保険課
<b>事業名</b> 民間老人福祉施設整備補助事業(特別養護老人ホーム等の整備)					課長名	横山
					施策番号	
<b>事業概要</b>	要介護者が、在宅生活が困難になった場合などにおいても可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるよう、民間事業者が行う介護保険施設等の整備を行います。					<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
						コスト 事業費 26年度当初予算額 323,800 千円 26年度執行額 千円 (事業費備考)

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	これまでの活動で十分な成果がでており、今後も公募の周知は積極的に実施します。	<b>見直し内容</b> 特別養護老人ホームや認知症グループホーム、介護老人保健施設等の整備は、第三次高齢者支援計画に則り、計画的に整備を行います。整備にあたっては、引き続き事業主体となる民間事業者を選定するため公募を実施します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	特別養護老人ホーム等	第三次北九州市高齢者支援計画に基づき、特別養護老人ホームや認知症グループホーム等の整備を行います。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	特別養護老人ホーム等の整備数 高齢者が地域で安心して生活するためには、在宅での介護が困難になったとき入所できるよう施設整備しておくことが必要なため、特別養護老人ホーム、グループホームなどの整備数を当施策の指標としました。最終目標値は第三次北九州市高齢者支援計画によるものです。 (最終目標と目標年度)特別養護老人ホーム5,033人、認知症グループホーム2,197人、介護老人保健施設2,970人:平成26年度末		特別養護老人ホーム5,033人、 認知症グループホーム2,197人、 介護老人保健施設2,970人	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	特別養護老人ホームや認知症グループホーム等の整備は、第三次北九州市高齢者支援計画で数値目標を設定し、計画的に行います。整備にあたっては、事業主体となる民間事業者を選定するため公募を実施します。		<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	公募の実施 適正な施設運営ができる事業者を選定するため公募を実施します。	—	適正な公募の実施	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
事業名 認知症対策普及・相談・支援事業					課長名	野瀬
					施策番号	
事業概要 認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指し、認知症を理解して、認知症の方を地域で温かく見守り、支える「認知症サポーター」の養成に取り組みます。また、認知症の本人や家族が抱える不安や悩みなどを気軽に相談できるコールセンターを設置します。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05人
		8,959 千円	千円		3,075 千円	係長 0.10人 職員 0.20人
					(人件費備考)	

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 認知症サポーター養成数(累計4万人達成)と認知症コールセンターの相談件数(年間400件超)は順調に推移しており、特に問題はありません。	見直し内容 引き続き目標達成に向けての取り組みを進めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	北九州市を「認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」にするために、認知症を理解して、認知症の方を地域で温かく見守り、支える「認知症サポーター」の養成に取り組むとともに、介護にあっている家族の精神的・身体的な負担の軽減を図るため、認知症の本人や家族が抱える不安や悩みなどを気軽に相談できる認知症コールセンターを設置します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	認知症コールセンター相談件数				
	認知症に関する正しい理解と啓発を図り、認知症に関する相談をしやすい環境を整備します。 (最終目標と目標年度) 平成26年度420件		維持		%
	(最終目標と目標年度)				%

活動計画	どうやって目的を達成するか 認知症サポーター養成講座では、大人だけでなく、中学生や高校生などの若い世代への普及・促進に力を入れて取り組むこととしています。さらに、認知症コールセンターなどの業務を通じ、実際に認知症になった人や家族が安心して暮らしていけるまちの実現に努めていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)				
	北九州市を「認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」にするためには、市民に対する認知症の正しい知識・理解の普及が必要です。		増加		%
	認知症コールセンター相談員研修実施回数				
	認知症コールセンターの相談員として必要な知識の習得のために研修を実施し、相談員としての資質の向上につなげます。		維持		%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
<b>事業名</b> 認知症啓発・早期発見推進事業					課長名	野瀬
					施策番号	
<b>事業概要</b> 「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」の実現のため、認知症に対する理解を深めるための啓発促進事業を行うとともに軽度認知障害対策事業を実施し、認知症の早期発見につながる施策を実施します。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
					(人件費備考) ( )	
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05人
		11,900 千円	千円		3,075 千円	係長 0.10人 職員 0.20人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 認知症予防の話と脳の健康度テストは、受講者からも評判のよい事業であるため、より多くの方に参加をしてもらえるよう、市民の方の参加の機会を増やします。	<b>見直し内容</b>	平成25年度からは、各区で年4回実施する定例講座のほかに、自治会・老人クラブなどの団体にも希望があれば出向いて講座を実施する出前講座を新規に行っています。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	認知症に関する正しい理解と啓発が進み、軽度認知障害の早期発見・早期対応がなされることで、「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	認知症予防の話と脳の健康度テスト参加者数				
	より多くの方に参加をしてもらえるよう、市民広報・参加機会の確保を図ります。 (最終目標と目標年度)平成26年度500人		増加	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 認知症予防の話と脳の健康度テストについては、引き続き市民の方の参加の機会の確保に努めます。また、認知症啓発月間啓発活動については、認知症についての啓発をすすめるために、今まで参加していなかった団体に参加していただけるよう、参加を働きかけます。市民の方の認知症予防に対する理解が進み、予防活動の広がりを図ります。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	認知症予防の話と脳の健康度テストの実施回数について				
	出前講座の開催など市民の方の参加の機会を増やします。		増加	%	
	街頭啓発活動参加団体数 地域社会での取組みを推進するため、街頭啓発活動に今まで参加していなかった団体に参加を働きかけます。		増加	%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
					課長名	野瀬
					施策番号	
事業名	認知症高齢者等安全確保事業					
事業概要	認知症による徘徊行動により行方不明となった高齢者の早期発見・早期保護を図るため、「徘徊高齢者等SOSネットワークシステム」の運営や、一時保護施設の確保、GPSを活用した位置探索サービスの提供により、認知症高齢者の安全確保を図ります。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.01人
		3,400 千円	千円		1,740 千円	係長 0.05人 職員 0.15人
					(人件費備考)	

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 認知症高齢者が徘徊行動等により行方不明となった場合の早期発見・早期保護のための体制の充実が課題となっています。	見直し内容 徘徊高齢者等SOSネットワークの協力者数を増加するための取り組みを強化していきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 認知症高齢者とその家族	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 認知症高齢者が徘徊行動により行方不明になっても、早期発見・早期保護を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	認知症高齢者の早期発見・早期保護		「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」の実現	%	
	認知症高齢者が徘徊行動により行方不明になった際に、早期発見・早期保護を図ります。 (最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 徘徊高齢者等SOSネットワークの登録意義などをPRし、協力者の増加を図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	徘徊高齢者等SOSネットワークのメール配信協力者数		増加	%	
	徘徊高齢者等SOSネットワークのメール配信協力者数を増加させることにより、高齢者の見守り体制を強化します。			%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>【経済性】</b> (同成果を低コストで) <b>【効率性】</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>				担当局	保健福祉局	
				担当課	障害福祉課	
<b>事業名</b> 障害者相談支援事業				課長名	坂元	
				施策番号		II - 2 - (2) - ①
<b>事業概要</b>	(1)障害者基幹相談支援センターを設置し、よろず相談窓口として家庭訪問を含む相談支援を行うとともに、併せて障害者虐待防止センターの機能を持たせて、虐待に関する通報の受理や養護者への指導、啓発などを行います。 (2)総合療育センター地域支援室に障害児相談支援の統括者を配置し、適切な機関・サービスにつなげる支援を実施します。 (3)虐待通報障害者虐待相談員(嘱託)を配置し、虐待に関する初動対応や事実確認などを行います。 (4)全ての障害者福祉サービス利用者のサービス等利用計画を作成していくため、障害者基幹相談支援センターに「総合支援コーディネーター」等を配置して、関係機関の協力体制整備・充実を図ります。(拡充分)				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	コスト 事業費	26年度当初予算額 126,926 千円	26年度執行額 千円	(事業費備考)	人件費 目安の金額 2,845 千円	課長 0.03人 係長 0.10人 職員 0.20人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 障害者等に対する迅速かつ適切な相談対応	<b>見直し内容</b>	障害者のさまざまな課題に、迅速かつ適切に対応できるよう相談業務のレベルアップと体制の強化を図ります。平成26年度は、障害者基幹相談支援センターに「総合支援コーディネーター」等を配置して、関係機関の協力体制整備・充実を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 障害者基幹相談支援センター	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 障害者のための第1次相談窓口として、地域における相談支援の中核的な役割を担う機関です。家族や本人から様々な相談を受付ける「よろず相談窓口」であり、相談者の自宅に向くなど丁寧な相談支援方法により、障害者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるように支援します。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 障害者基幹相談支援センターの相談件数	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	障害者等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようになるため、障害者基幹相談支援センターが障害者やその家族等からの相談に応じ、必要な支援を行います。 (最終目標と目標年度)	件	25,272 件	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 障害者基幹相談支援センターを設置し、よろず相談窓口として家庭訪問を含む相談支援を行うとともに、併せて障害者虐待防止センターの機能を持たせて、虐待に関する通報の受理や養護者への指導、啓発などを行います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) 支援機関職員等を対象にした研修会の実施回数	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	支援機関職員等を対象にした研修会を実施し、障害者支援の資質向上や障害者基幹相談支援センターを含めたネットワークの構築・強化に努めます。		前年度並み	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局	
					担当課	障害福祉課	
<b>事業名</b> 地域生活移行促進事業					課長名	山田	
					施策番号		II - 2 - (2) - ①
<b>事業概要</b>	入所施設、在宅(介護者との生活)等から地域生活への移行を希望する障害のある人への支援を行うため、地域での生活を体験する機会を提供する事業者への助成等を行います。				<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
						(人件費備考)直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています。	
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.01人
		10,213 千円	千円			1,054 千円	係長 0.02人 職員 0.10人

## 【Action】改善

<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	長年入所施設で生活を送られている障害のある方の地域社会への移行は、環境変化に伴うパニックの発生や夜間介助等体制への不安(定員の関係上相対的に職員の多い入所施設とグループホーム等との対応能力の差)などが想定されます。地域移行を促進するには、障害のある方の生活基盤となるグループホーム等の充実が必要と考えます。	<b>見直し内容</b>	・障害のある方の地域移行に向けた環境変化のスムーズな適応(パニック軽減)や不安の解消等を図るため、地域生活体験事業の継続実施が必要です。 ・また、地域生活での受け皿となるグループホーム等の充実も必要のため、適切な事業者の指定等に努めます。
-----------	-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	施設入所者等のうち地域生活への移行を希望される障害のある人	障害者総合支援法の趣旨である「障害の有無にかかわらず安心して暮らすことのできる地域社会の実現」を目指して、施設入所者等の地域移行を促進します。		26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標		
	生涯を通じた支援体制の構築  障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。  (最終目標と目標年度)		地域での生活を望む障害者に対して、希望どおり必要な障害福祉サービスの提供の実現	%	
	入所施設からの地域生活への移行者数  平成17年10月1日時点で障害者施設に入所していた人のうち、単身生活やグループホーム・ケアホーム等地域での生活に移行した人の数を増やすことで、地域移行を進めます。  (最終目標と目標年度)		330 人	%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 施設入所者等が地域生活へ移行するための基盤となる、障害福祉サービス(グループホーム)の充実を図るため、グループホーム助成事業を実施します。また、長期間施設で生活する障害者等に地域での生活を体験する機会を提供するため、地域生活移行体験事業(補助金)を実施します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)
<b>活動指標</b>	グループホーム等助成事業件数  グループホーム等助成事業の実績です。民間事業者(法人)による、ケアホーム・グループホームの整備(居住の場が増加)により、障害者の地域生活への移行の可能性が高まることとなりますので、事業者への支援が必要と考えます。		地域生活基盤充実のための支援	%	
				%	

## 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

		担当局	保健福祉局	
		担当課	障害福祉課	
		課長名	坂元	
事業名	発達障害者総合支援事業	施策番号		
		II - 2 - (2) - ①		
事業概要	(1)発達障害児(者)の方や家族等の相談に応じるとともに、必要な情報提供をします。また、関係機関と連携しながら、必要な支援を行ったり、啓発活動を行ったりします。 (2)発達障害児(者)のライフステージに応じた適切な支援体制の整備を行うことにより、発達障害児(者)及びその家族等の地域における生活の安定と福祉の向上を図ります。 (3)発達障害児(者)について、先駆的な支援の取り組みをモデル的に実践し、その分析・検証を行うことで発達障害児(者)に対する有効な支援手法の確立を図ります。 (4)発達障害に関する正しい理解の啓発を図ります。 (5)家族会等が実施する相談支援や余暇活動の中で、今後継続的に実施が見込まれるものに対して、事業費の一部を予算の範囲内で補助します。			
	事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	(人件費備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員・ボランティアも関わっています。		
コスト	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費
	44,776 千円	千円		目安の金額
				課長 0.03人
				係長 0.10人
				職員 0.20人

## 【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	見直し内容	発達障害者支援センター「つばさ」を中核として、発達障害に関する研修会を実施して、より多くの参加を促すような工夫を行うとともに、特定の職種を対象とした啓発活動を行っていきます。
----	-------------------	-------	-----------------------------------------------------------------------------------------

## 【Plan】計画

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	成果の状況評価理由
	発達障害のある方やその家族	発達障害に関連して、広く普及啓発を目的としたイベントを実施したり、支援者の拡大や支援の充実を目的とした研修会を実施したりすることで、発達障害児(者)及びその家族への理解・支援をより一層進めていきます。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	発達障害関連の研修会の参加者数(延べ人数)		増加		
	発達障害関連イベントや研修会の参加者数が発達障害への理解、支援の広がりを表す指標と考え設定しました。 (最終目標と目標年度)			%	
	警察関係者等への研修会の参加者数(延べ人数)		増加		
	警察関係者等への研修会の参加者数が発達障害への理解の広がりを表す指標と考え設定しました。 (最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	発達障害の理解や支援の充実を図るために、イベントや研修会を実施します。また、発達障害児(者)は外見で障害の有無が分からないため、その言動により周囲に誤解を生じさせてしまうことがあります。その結果、あらぬ疑いにより不利益を被らせないよう、警察関係者等を対象とした啓発・研修を進めていき、発達障害児(者)への理解と支援の輪を広げていきます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
------	---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------	------------------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	発達障害関連の研修会実施回数		前年度並み		
	一般市民向けの普及啓発を目的としたセミナーとともに、支援者向けの研修会を実施することで、発達障害児(者)の対応について理解を図ります。			%	
	警察関係者等への研修会		25年度以外の警察署での研修会の開催、司法機関関係者への拡大	%	
	警察関係者等への研修を実施することで、発達障害児(者)の対応について理解を図ります。あわせて、裁判所、検察庁等の司法機関への拡大も検討していきます。			%	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	障害福祉課
					課長名	柴田
<b>事業名</b>	総合療育センター再整備事業				施策番号	
					II - 2 - (2) - ①	
<b>事業概要</b>	施設の老朽化や障害児・者のニーズの多様化、拡大等に対応するため、北九州市立総合療育センターを再整備します。					<b>事業手法</b>
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.20 人
		64,000 千円	千円		7,300 千円	係長 0.20 人 職員 0.40 人
					(人件費備考)	

【Action】改善		
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 老朽化等が課題となっているため、機能面及び施設面から検討を行い、再整備に向けた基本方針を定めました。今後、再整備を確実に実施していくためには、この基本方針を踏まえ、より具体的な基本計画を策定する必要があります。	<b>見直し内容</b> 指定管理者である市福祉事業団や利用者や有識者等で構成されるアドバイザリー会議などの意見を参考に、再整備基本計画を策定します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	<b>対象</b> (誰を、何を) 新北九州市立総合療育センター	<b>目指す状態</b> (どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 施設の老朽化や障害児・者のニーズの多様化、拡大化等の課題に対応するため、北九州市立総合療育センターの建替えを行います。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	施設の老朽化等に対応するため、再整備を行うこととし、平成30年度の開所を目指します。 成果指標は、基本計画をふまえ今後検討します。		-	%	
	(最終目標と目標年度) 平成30年度 開所			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 平成30年度の開所に向けて、基本設計を行います。	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	新総合療育センターの基本設計		基本設計の完了	%		
	平成25年度に策定する基本計画に基づき、基本設計を行います。			%		
				%		

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>				担当局	保健福祉局	
				担当課	障害福祉課	
<b>事業名</b> 障害者就労支援事業				課長名	坂元	
				施策番号		II - 2 - (2) - ②
<b>事業概要</b>	障害者しごとサポートセンターを拠点に、障害者本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓や企業の意識啓発及び就労移行支援に対する効果的な支援への取組みを通じて、障害者の雇用促進を目指します。				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	<b>コスト</b>	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.03人 係長 0.20人 職員 0.10人
事業費	32,298 千円	千円		人件費	3,095 千円	(人件費備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています。

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	成果指標とした「障害者しごとサポートセンター利用者の就職件数」及び「福祉施設から一般就労への移行件数」について、どちらも増加し、大変順調という評価です。ただし、平成25年4月から障害者の法定雇用率が引き上げられたことなどから障害者に対する就業支援や職場定着支援へのニーズは、障害者のみならず、雇用主からも高まっており、これに応えるための事業内容が必要と思われます。	<b>見直し内容</b> 障害者しごとサポートセンターを拠点とする体制を継続し、障害者の就職支援だけでなく職場定着支援も継続することで、市民のニーズに応えます。また、相談者への支援のみならず、特別支援学校生やその保護者及び就労移行支援事業所利用者を対象とした企業見学会などの各種企画を実施し、支援対象者への早期の就労支援体制の構築を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	就労を希望する障害者とその支援者、特別支援学校生とその保護者、および雇用主	障害者しごとサポートセンターを拠点に、障害者本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓や企業(雇用主)の意識啓発、及び就労移行支援事業所等が実施する就労支援に対する効果的な支援への取組みを通じて、障害者の雇用促進を目指します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	障害者しごとサポートセンター利用者の就職人数	人	増加	%	
	支援対象となる障害者が、職業準備訓練や職場実習あつせん、職場定着支援などの障害者しごとサポートセンター提供のサービス利用者を通じて、実際に企業に就職した数。 (最終目標と目標年度) 平成29年度:90人				
	福祉施設から一般就労への移行人数	人	増加	%	
	障害者の就労を目指す就労移行支援事業所等の利用者が、実際に企業へ就職した数。 (最終目標と目標年度) 平成26年度:48人				

<b>活動計画</b>	障害者が地域でいきいきと自立した生活を送れるよう、「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に運営委託している障害者しごとサポートセンターを拠点として、就職を希望する障害者に対し、指導や助言、職業訓練や職場実習の調整・あつせん、能力や適性に応じた職業紹介の調整などの支援を行うとともに、就職後の職場定着支援や新たな職場の開拓を行うほか、企業の障害者雇用に対する理解の進展を図ります。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	相談・支援件数		増加	%	
	窓口に来所した登録者の相談受付や、会社面接や区役所・ハローワーク等公共機関への同行、家庭訪問、障害者が就職した会社を訪問しての定着支援などの件数。				
	職業準備訓練および職場実習のあつせん件数		増加	%	
	継続および新規でしごとサポートセンターに登録している障害者に、職業準備訓練や職場実習をあつせんした件数。				

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	障害福祉課
<b>事業名</b> 地域生活移行促進事業					課長名	山田
					施策番号	
<b>事業概要</b> 入所施設、在宅(介護者との生活)等から地域生活への移行を希望する障害のある人への支援を行うため、地域での生活を体験する機会を提供する事業者への助成等を行います。					<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( ) <small>(人件費備考)直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています。</small>	
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額
		10,213 千円	千円			課長 0.01人 係長 0.02人 職員 0.10人

【Action】改善		
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 長年入所施設で生活を送られている障害のある方の地域社会への移行は、環境変化に伴うパニックの発生や夜間介助等体制への不安(定員の関係上相対的に職員の多い入所施設とグループホーム等との対応能力の差)などが想定されます。地域移行を促進するには、障害のある方の生活基盤となるグループホーム等の充実が必要と考えます。	<b>見直し内容</b> ・障害のある方の地域移行に向けた環境変化のスムーズな適応(パニック軽減)や不安の解消等を図るため、地域生活体験事業の継続実施が必要です。 ・また、地域生活での受け皿となるグループホーム等の充実も必要のため、適切な事業者の指定等に努めます。

【Plan】計画			【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	成果の状況評価理由
	施設入所者等のうち地域生活への移行を希望される障害のある人	障害者総合支援法の趣旨である「障害の有無にかかわらず安心して暮らすことのできる地域社会の実現」を目指して、施設入所者等の地域移行を促進します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	生涯を通じた支援体制の構築		地域での生活を望む障害者に対して、希望どおり必要な障害福祉サービスの提供の実現	%	
	障害のある人が、一人の市民として地域社会の中で安心して生活を送ることができるように、障害福祉サービスの充実に努めます。 (最終目標と目標年度)		330 人	%	
	入所施設からの地域生活への移行者数 平成17年10月1日時点で障害者施設に入所していた人のうち、単身生活やグループホーム・ケアホーム等地域での生活に移行した人の数を増やすことで、地域移行を進めます。 (最終目標と目標年度)				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 施設入所者等が地域生活へ移行するための基盤となる、障害福祉サービス(グループホーム)の充実を図るため、グループホーム助成事業を実施します。また、長期間施設で生活する障害者等に地域での生活を体験する機会を提供するため、地域生活移行体験事業(補助金)を実施します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	活動の状況評価理由	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標		26年度実績(達成率)
	グループホーム等助成事業件数 グループホーム等助成事業の実績です。民間事業者(法人)による、ケアホーム・グループホームの整備(居住の場が増加)により、障害者の地域生活への移行の可能性が高まることとなりますので、事業者への支援が必要と考えます。		地域生活基盤充実のための支援	%	活動の状況評価理由
				%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を)の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	障害福祉課
<b>事業名</b> 障害者スポーツ振興事業					課長名	坂元
					施策番号	
<b>事業概要</b>	障害者のスポーツ大会や、各種スポーツ教室等を開催、障害者団体等によるスポーツ大会等への支援を行います。				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
					コスト 事業費 26年度当初予算額 51,360 千円 26年度執行額 千円 (事業費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 当事業は施策に対する有効性は高く、「社会参加の促進」を図っていく上で重要な事業です。今後も、より参加しやすい大会や教室になるよう工夫していく必要があります。	<b>見直し内容</b>	今後もさらなる社会参加の促進に向けて事業を継続し、より参加しやすい大会や教室になるよう工夫します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 障害のある方	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) スポーツを通じた社会参加の促進		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	障害者スポーツ教室等参加者数		増加		
	教室参加者の特性を十分に考慮し、安全かつ安心して参加できる教室になるように努めます。 (最終目標と目標年度)			%	
	北九州市障害者スポーツ大会参加者数		増加		
	大会参加者が、安全かつ安心して参加できる大会となるように努めます。 (最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 北九州市障害者スポーツ大会や各種の障害者スポーツ教室を開催するとともに、障害者団体等によるスポーツ大会の開催や参加への支援を行います。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	障害者スポーツ教室等開催回数		112 回		
	教室参加者の特性を十分に考慮し、安全かつ安心して参加できるスポーツ教室を開催します。			%	
	北九州市障害者スポーツ大会開催		開催		%
	障害のある方が、安全かつ安心して参加できる大会を開催します。			%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点 「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局	
					担当課	障害福祉課	
<b>事業名</b> 障害者芸術文化活動等推進事業					課長名	坂元	
					施策番号		II - 2 - (2) - ③
<b>事業概要</b>	障害のある方の芸術・文化活動を推進するため、「障害者芸術祭」などの芸術・文化活動の発表の場を設けるとともに、家に閉じこもりがちになる障害者が地域社会へ一歩踏み出し、社会の一員として自立するための支援事業を行います。				<b>事業手法</b>	<input type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 補助金
						<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> 負担金
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.012 人
		7,193 千円	千円			係長	0.04 人
					職員	0.07 人	(人件費備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員・ボランティアも関わっています。

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	当事業は施策に対する有効性は高く、「社会参加の促進」を図っていく上で重要な事業です。今後も目標達成に向けて、障害のある方が社会で活動するための支援を充実させていく必要があります。	<b>見直し内容</b>
			今後も目標達成に向けて、参加者のニーズを踏まえ、障害のある方の活動を支援する取り組みを充実させます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	障害のある方	障害のある方の社会参加の促進			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	障害者芸術祭 出展者数		増加		
	多くの障害のある方の芸術・文化活動の発表の場となるよう努めます。 (最終目標と目標年度)			%	
	障害者芸術祭 来場者数		増加		
障害の有無にかかわらず、多くの方が来場するイベントとなるよう努めます。 (最終目標と目標年度)				%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	障害のある方の芸術・文化活動の発表の場を設け、社会の一員として自立するための支援に努めます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	障害者芸術祭の開催		開催		
	障害のある方の芸術・文化活動の発表の場として開催します。			%	
				%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>				担当局	保健福祉局		
				担当課	健康推進課		
<b>事業名</b> 健康診査・健康診査受診促進事業				課長名	大庭		
				施策番号		II - 2 - (3) - ①	
<b>事業概要</b>	がんなどの生活習慣病予防対策の一環として、これらの疾患の疑いのある者や危険因子を持つ者をスクリーニングするため、各種がん検診等を実施します。 また、受診勧奨ハガキの送付や健康診査のチラシの配布、啓発イベントなどのPR活動を通じて、健康診査についての知識を普及するとともに、健康診査受診の動機づけを行うことで受診率の向上を図ります。						
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額 668,948 千円	26年度執行額 千円	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.10人 係長 0.30人 職員 1.00人	事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	人件費				11,650 千円	(人件費備考)	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	がん検診の受診者数は概ね増加しているが、以前として全国と比較し、低い受診傾向にあるため、今後も低コスト・高効率で、より効果的な受診促進が必要です。	<b>見直し内容</b> 国庫補助の変更に伴い、乳がん・子宮頸がん検診の無料クーポンについては、過去に配布したが未使用であった者を対象に再配布することとし、既受診者へは個別勧奨を実施することで、受診活動の定着化を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	健やかに心豊かに生活できるよう、がんをはじめとする生活習慣病の予防に取り組めます。そのため、がん検診など各種検診を実施し、これらの疾患の早期発見、早期治療につなげます。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少		減少(H25比較)	%	
	各種がん検診等の実施により、市民のがんによる死亡率減少を目指します。(10万人対年齢調整死亡率) (注)数値は健康推進課調べ(1年遅れ) (最終目標と目標年度) H29年度 74.4人				%

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	北九州市医師会への委託により、がん検診や若者健診、骨粗しょう症検診など各種検診を1,000円以下で実施します。また、大腸がん検診無料クーポンを一定年齢の市民に、子宮頸がん・乳がん検診無料クーポンは過去未使用者のみに配布することとし、過去にクーポンを使用した者には個別勧奨ハガキを送付します。さらに、企業・ボランティア等との連携により継続的に検診の普及啓発活動を行い、がん検診受診者の増加を図ります。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	がん検診受診者の増加		増加(H25比較)	%	
	職域の受診率を把握する仕組みがないため、市が実施する5大がん(胃がん・大腸がん・肺がん・子宮頸がん・乳がん)の検診受診者数の増加を目標にします。				%

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	健康推進課
<b>事業名</b> 保健事業(特定健診・特定保健指導)					課長名	大庭
					施策番号	
<b>事業概要</b>	「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づいて、40歳～74歳の北九州市国民健康保険被保険者を対象にメタボリックシンドロームに着目した生活習慣病予防のための特定健診を実施します。また、健診の結果、特定保健指導やその他の保健指導等適切な事後フォローを実施します。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<b>コスト</b>	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考) うち特定健診・特定保健指導	目安の金額	
	952,787 千円	千円	760,946千円		41,150 千円	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	特定健診の受診率は順調に上昇していますが、まだ低い水準です。未受診者のなかには、生活習慣病予備群・生活習慣病有病者で、適切な医療受診や保健指導につなげていない方も多く考えられます。また、特定保健指導非対象者の中にも、血圧・血糖・脂質異常のコントロール不良の方や、必要な治療を受けていない方が多い状況です。生活習慣病予防及び重症化予防の推進には、特定健診受診率のさらなる向上と、健診後の事後フォローの充実が必要であると考えます。	<b>見直し内容</b> 受診率の向上に向けて、未受診者に対するハガキによる受診案内の送付等、各種の受診勧奨事業を継続して実施するとともに、受診後の適切なフォロー体制をさらに充実させることで受診促進と生活習慣病予防及び重症化予防の推進を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	
	多くの対象者	早期に受診することによって、生活習慣病予防を推進し、誰もが元気で安心して地域で生活できるまちづくりをめざします。		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	高血圧症該当者(重度)の減少 北九州市国民健康保険の特定健診受診者における高血圧症該当者(収縮期血圧180mmHg以上又は拡張期血圧110mmHg以上)の割合が減少することを目指します。 (最終目標と目標年度) H29年度 0.8%		割合の減少	%	
	血糖コントロール不良者(重度)の減少 北九州市国民健康保険の特定健診受診者における血糖コントロール不良者(HbA1c8.0%以上(JDS値))の割合が減少することを目指します。 (最終目標と目標年度) H29年度 1.2%		割合の減少	%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	特定健診受診率の向上に向けて各種の受診勧奨事業を継続して実施するとともに、受診後の適切なフォロー体制を充実させることで受診促進を図ります。その一環として、健診後の特定保健指導の実施にむかえて、特定保健指導非対象者にも保健指導を行います。さらに、健診結果により、CKD(慢性腎臓病)予防に向けた、かかりつけ医・腎専門医との予防連携システムを活用し、重症化予防に努めます。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	北九州市国民健康保険における特定健診の受診率の上昇 特定健診受診率について、「第二期特定健康診査等実施計画」で示した目標値は40%ですが、実績を勘案し、前年度実績から2ポイント以上上昇することを目指します。		40 %	%	
	北九州市国民健康保険における特定保健指導の実施率 実施に半年以上を要する特定保健指導は年度の区切りがあいまいなため、各年度の実施率はおおよその目安となります。実施率目標値は、「第二期特定健康診査等実施計画」で示した平成26年度の目標値40%としています。		40 %	%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	健康推進課
<b>事業名</b> 歯科保健の推進					課長名	古賀
					施策番号	
<b>事業概要</b>	乳幼児の歯科疾患の早期発見・早期対応を図り、健全な発育、発達、健康の保持増進を図るため、「1歳6か月児・3歳児歯科健康診査」、「親子歯科健診」、「4歳児・5歳児歯科検診」、「フッ化物塗布事業」等を実施するもの。				<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
					( )	
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.30人
		94,889 千円	千円		19,575 千円	係長 715.00人 職員 1.15人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	3歳児のむし歯のある者の割合は、徐々に減少しているもの他都市と比較しても高いのが現状です。幼児に対する予防対策や施策実現の基盤ともなる歯科保健に関する指導や普及啓発が必要です。	<b>見直し内容</b> 乳幼児期における歯や口腔の異常や歯科疾患のリスクを早期発見し、歯と口の健康づくりを行っていくため市民へのPRを推進し、歯科健康診査受診者率の向上に努めます。今後も目標の達成に向けて着実に取組みを進めるため、引き続き事業を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	歯と口の健康は市民の健康寿命を延ばすことに役立つだけでなく、美味しい食事や家族や仲間との会話を楽しむ等による市民の生きる力をはぐくみ、生活の質の向上を図るための重要な要素です。生涯を通じた歯と口の健康づくりの一環として、乳幼児期のむし歯予防により歯と口の健康づくりの推進を図ります。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	3歳児でむし歯のない者の割合	—	増加		
	乳幼児期における歯や口腔の異常や歯科疾患のリスクを早期発見し、適切な指導を行うために1歳6か月児・3歳児を対象に歯科健康診査を実施します。 (最終目標と目標年度)				%
	毎日の食事をおいしいと思う人の割合	—	増加		
	食事をおいしく感じることは、食生活はもちろん、口腔機能を始めた身体機能の状況や毎日の生活の満足度の目安となるものであり、QOLの向上や健康寿命の延伸にもつながると考え、指標として設定しました。※参考:毎日の食事がおいしいと思う人の割合 社年期:64.7%(平成23 北九州市健康づくり実態調査結果) (最終目標と目標年度)				%

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	ライフステージに応じた歯科検診、健康診査、予防措置の実施及び健康教育、保健指導、情報提供を行います。また、関係団体等と連携し、全身疾患との関連について周知を図り、市民の口腔保健に対する意識の向上を推進します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	1歳6か月児・3歳児歯科健康診査を受診した者の割合		増加		
	乳幼児期における歯や口腔の異常や歯科疾患のリスクを早期発見し、適切な指導を行うために1歳6か月児・3歳児を対象に歯科健康診査を実施します。また歯科医師会等の関係団体の協力を得ながらPRし受診者率の向上に努めます。				%
				%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>				担当局	保健福祉局		
				担当課	健康推進課		
<b>事業名</b> 食育の推進				課長名	古賀		
				施策番号		II - 2 - (3) - ②	
<b>事業概要</b> 第二次北九州市食育推進計画(平成26年4月策定)の進捗管理にあたって、有識者等から意見を聴取するため、「(仮)北九州市食育推進懇話会」を設置します。また、地域における食育推進や地域で活動する食生活改善推進員の養成を目的とした講座の開催により、食育に関する人材育成を図るとともに、北九州市食生活改善推進員協議会が実施する「ふれあい昼食交流会」への開催支援を行います。併せて、食育に関する情報発信の充実や関係団体等のネットワークづくりを進め、お互いの情報共有や相互連携・協力による食育を推進します。				<b>事業手法</b>			
				<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.07人
		30,651 千円	千円			人件費	係長
						(人件費備考)当課以外にも食育関係局・会、各区役所の職員が事業に従事しています。	

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	食に関して学ぶ機会である「地域食育講座」等の開催や食育の普及啓発は予定通り実施できているものの、「食育に関心がある者の割合」の減少が見られます。食育に関心のある方だけでなく、無関心層や若い世代に対する効果的な働きかけが必要です。	<b>見直し内容</b> 無関心層や若い世代が関心を持つような方法を検討し、より一層の食育推進に努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民、食育関係者	食を通して、市民の心と身体の健康と豊かな人間性を育み、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるように、家庭や地域、関係機関と連携して、子どもから高齢者までライフステージに応じた食育を推進し、誰もが食に関心を持って行動する社会を目指します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	食育に関心がある者の割合	75.3% (平成24年度)	単年度目標設定なし		
	様々な食育の取組を評価するものとして、必要な指標と考えます。第二次北九州市食育推進計画の指標の中から設定しました。  (最終目標と目標年度)90%以上(平成30年度)				

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	(仮)食育推進懇話会及び食育推進ネットワーク情報交換会を開催し、関係者や市民の意見等を取り入れながら各事業の推進に努めるとともに、「地域食育講座」等の講座を継続的に開催し、「食」に関する人材育成に努めます。また、テーマを絞った集中的な啓発活動を実施します。参加者から好評を得ている「ふれあい昼食交流会」については、全校区での実施に向けて支援していきます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	地域食育講座等の開催数	実施中	400 回		
	地域において「食」に関する課題等について学ぶ機会を確保するため、「地域食育講座」を継続して開催し、多くの市民が参加するよう努めます。また、食生活改善推進員の養成を図り、「健康料理普及講習会」や全校区での「ふれあい昼食交流会」開催に向けて支援していきます。				

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	健康推進課
<b>事業名</b> 介護予防事業(通所型・訪問型)					課長名	古賀
					施策番号	
<b>事業概要</b> 要介護状態等となるおそれの高い二次予防事業対象者に対して、通所型介護予防事業(運動機能や口腔機能の向上教室、複合型の教室)や介護予防事業(保健師や看護師等の訪問による支援)を行います。	<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )					
						<b>コスト</b> 事業費 26年度当初予算額    26年度執行額 (事業費備考) 157,073 千円    千円

【Action】改善			
<b>課題</b> H24年度の評価結果を受けての課題	二次予防事業参加者の事業参加後の生活機能評価で、「改善・維持」の割合がほぼ目標値を達成しており、順調な成果が得られました。「通所型介護予防事業」の参加人数は計画を下回っています。	<b>見直し内容</b> 「通所型介護予防事業」対象者への働きかけや介護予防の意義の啓発等、参加者の増加に向けた更なる検討が必要です。	

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b> 対象(誰を、何を) 要介護状態等となるおそれの高い二次予防対象者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 通所型介護予防事業(運動機能や口腔機能の向上教室、複合型の教室)や介護予防事業(保健師や看護師等の訪問による支援)を行うことで、高齢者の生活の質の向上や介護保険制度の安定的な運営を目標とします。	<b>成果の状況</b> 代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
健康づくりや介護予防に取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合 高齢者実態調査で健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがある高齢者をモニタリングします。二次予防事業の実施で、介護予防が推進できれば、この割合が増加すると思われました。 (最終目標と目標年度)平成26年度→増加			増加	%	
<b>代表的な成果指標</b> 二次予防事業に参加後の生活機能評価で、維持・改善した人の割合 二次予防事業(要介護状態となるおそれの高い高齢者のための教室等)に参加した対象者の生活機能の維持・改善率を指標とすることで、事業の有効性評価できると考えました。 (最終目標と目標年度)平成26年度→94.7%			94.7%	%	

<b>活動計画</b> どうやって目的を達成するか	より多くの二次予防事業対象者が要介護状態になることを予防できるように、対象者への積極的な働きかけや介護予防の意義の啓発を行う。また、関係職員の研修実施等を行い、二次予防事業の質を保ち、介護予防の推進に努めます。	<b>活動の状況</b> 活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		25年度実績	26年度目標
通所型介護予防事業の参加者数			1,270 人
要介護状態となるおそれの高い高齢者に提供する、通所型介護予防事業(運動器の機能向上・口腔機能向上・複合型)に参加する二次予防事業対象者の数を増加させ介護予防を推進します。			%
訪問等による介護予防事業支援事業で対応した人数			9,766 人
要介護状態となるおそれの高い高齢者に対し、保健師・看護師等が訪問を行い必要な支援を行うことで、要介護状態となることを防ぎます。			%

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b> 【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局	
					担当課	健康推進課	
<b>事業名</b> 百万人の介護予防事業					課長名	古賀	
					施策番号		II - 2 - (3) - ③
<b>事業概要</b> 市民が介護が必要となる状態を防ぐ(介護予防)とともに、健康づくりや介護予防についての正しい知識を普及・啓発するため、65歳以上の高齢者を対象に、北九州市が独自に開発した「きたきゅう体操(介護予防体操)」と「ひまわりタイチー(介護予防太極拳)」の教室を開催します。また、きたきゅう体操やひまわりタイチーを身近な地域で自主的に継続して行うとともに、いきがいづくりを進めるため、普及員の養成や自主グループの活動を支援します。					<b>事業手法</b>		
					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )		(人件費備考)
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.00人
		24,751 千円	千円				係長 0.20人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	下記の指標の他に、自主グループの形成のための側面的支援を行い、自主グループの登録数が大きく増加しました。しかし、普及員の登録者数は、H23年度を頂点にゆるやかな増加となり、今後は大幅な増加は見込めない状況です。介護予防の自主化・継続化を促進するにあたり、手法の見直しが必要な状況です。	<b>見直し内容</b> 介護予防の自主化・継続化を促進するために、普及員の養成は、ゆるやかな増加のまま継続し、各普及員のスキルアップを図るなど側面的支援による自主グループの形成の促進を積極的に行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	65歳以上の高齢者	身近な地域の中で自ら健康づくり及び介護予防に取り組むために、きたきゅう体操及びひまわりタイチーを活用して、地域における健康づくりや介護予防の普及・啓発を行います。また、普及員の養成などを通じて介護予防の自主化・継続化の一層の促進を行い、より地域に根ざした介護予防の実施やいきがいづくりを推進します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合		増加		
	高齢者実態調査で「健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがある」高齢者をモニタリングします。住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えました。 (最終目標と目標年度) 増加・26年度(対H22年度 80.0%)				%
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	介護予防の一層の普及・啓発を図るため、引き続き、きたきゅう体操及びひまわりタイチーの教室や体験会等を開催します。また、更なる普及と介護予防の自主化・継続化のため、普及員の養成及び普及員による自主グループの形成を促します。		<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	普及教室の参加者数(単年度・実数)		420 人		
	きたきゅう体操及びひまわりタイチーを市民に普及させることを目的として、それぞれについて教室を開催します。				%
	普及員の登録者数(累計)		450 人		
	地域で活動するリーダーとなる普及員を養成し、普及活動を行ってもらうことにより、介護予防の自主化・継続化を目指します。併せて、自主グループの育成を側面的に支援します。			%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

		担当局	保健福祉局	
		担当課	精神保健福祉センター	
		課長名	三井	
事業名	自殺対策事業	施策番号		
		II - 2 - (3) - ③		
事業概要	市民への啓発活動を中心に、自殺者を減らすためのさまざまな事業を実施します。			事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)
		28,158 千円	千円	目安の金額
				課長 0.15人 係長 0.95人 職員 1.20人 (人件費備考)

## 【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題 自殺率は減少傾向にあるものの、政令市の中ではいまだに高い水準にあります。自殺問題は、経済情勢、雇用問題等様々な社会的要因が関係しています。そのため、引き続き行政、民間、地域団体等との連携を強化し、普及啓発等の総合的な対策の施策を推進する一方で、ハイリスク者への個別対応が必要であると考えます。	見直し内容	前年度に引き続き、人材育成、普及啓発、相談対応、関係機関連携を進める一方で、25年度から開設された「いのちのこころの支援センター」において、ハイリスク者(自殺未遂者等)に対する専門的な支援を行います。
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【Plan】計画

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	【Do】実施 → 【Check】評価	
	市民が	自殺について正しい知識を持ち、自殺の危険を示す人や自殺に傾いた人を適切な機関・窓口等へつなぐことができる状態を目指します。	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	自殺死亡率(人口動態調査による) 内閣府が定める「自殺対策大綱」に基づき、平成28年までに平成17年の人口10万人当たりの自殺者数(24.6)を20%削減します。 (最終目標と目標年度) 平成28年19.7人		対前年比減	%	
	(最終目標と目標年度)			%	

## 【Do】実施

活動計画	どうやって目的を達成するか 自殺対策講演会、支援者向け研修、自殺予防こころの相談電話及び自死遺族支援等従来の事業を継続実施します。そのほか、地域自殺対策緊急強化基金を活用し、啓発・広報の強化、人材育成の強化を行うほか、ハイリスク者(自殺未遂者等)に対する専門的な支援を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	養成したゲートキーパーの人数 うつ状態にある人の早期発見・早期治療や自殺の危険性が高い人の早期発見・早期対応など、より早く自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応をとることができるよう、その中心的役割を果たす人材(ゲートキーパー)を養成します。 市民・関係機関等への広報・啓発活動実施回数 広く市民に対し自殺について正しい知識を普及・啓発すると同時に、自殺の危険を示す人や自殺に傾いた人を適切な機関・窓口等へつなぐことができるよう、関係機関との連携のもと、様々な機会や媒体を活用し、広報・啓発活動を行います。		1,000 人	%	
			50 回	%	

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局	
					担当課	健康推進課	
<b>事業名</b> 健康マイレージ事業					課長名	大庭	
					施策番号		II - 2 - (3) - ④
<b>事業概要</b> 介護予防・生活習慣改善等の取り組みや健康診査の受診等をポイント化し、そのポイントを健康グッズなどと交換することで、健康づくりの重要性を広く普及啓発するとともに、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進します。また、さらに身近で参加しやすい事業となるよう、地域が主体となった仕組みを展開します。					<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長	0.05 人
		63,458 千円	千円			係長	0.20 人
					人件費	職員	0.30 人
					4,825 千円		(人件費備考)

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	参加者数は、年々増加していますが、40～64歳の稼働層の参加者は全体の割合からすると少ない状況です。今後は、低コストで魅力ある事業づくりと、稼働層への事業参加促進が必要です。	見直し内容 景品コストを抑えながらも、魅力ある物を選定し、市民の参加意欲の維持を図ります。稼働層への事業参加促進のため、企業への広報をより強化していきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	40歳以上の市民	介護予防や健康づくりの重要性を広く普及啓発し、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進します。				
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	<b>成果の状況評価理由</b>
	自分の健康状態について「普通」「まあよい」「よい」と考えている高齢者の割合			80%以上		
	高齢者実態調査で一般高齢者に対し、自身の健康観についてモニタリングします。「健康マイレージ」により、市民が自主的に健康づくりに取り組むことで、市民の主観的な健康観が向上すると考えました。 (最終目標と目標年度) 80%以上・26年度				%	
	健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがあると答えた高齢者の割合			増加		
高齢者実態調査で「健康づくりや介護予防のために取り組んでいることがある」高齢者をモニタリングします。住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えました。 (最終目標と目標年度) 増加・26年度(対平成22年度:80.0%)				%		

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	生涯を通じた健康づくりを推進するため、介護予防・生活習慣改善等の取り組みや健康診査の受診等をポイント化し、そのポイントを健康グッズなどと交換することで、健康づくりの重要性を広く普及啓発するとともに、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進します。また、さらに身近で参加しやすい事業となるよう、地域が主体となった仕組みを展開します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)		25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	<b>活動の状況評価理由</b>
	健康マイレージ事業参加者数			20,000 人		
	健康マイレージ事業参加者数を増加させることで、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取り組みを促進させます。				%	
					%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	健康推進課
<b>事業名</b> 市民センターを拠点とした健康づくり事業					課長名	大庭
					施策番号	
<b>事業概要</b> 市民が主体となって、地域の健康課題について話し合い、目標の設定・計画づくり・実践・事業評価を一つのサイクルとして、まちづくり協議会、健康づくり推進員の会、食生活改善推進協議会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、保健師等の連携により健康づくりに取組みます。					<b>事業手法</b> <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
<b>コスト</b>	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.10人
	14,217 千円	千円			7,900 千円	係長 0.30人 職員 0.50人

【Action】改善		
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 平成25年度は実施団体が111となり全体の82%の地域で実施できています。未実施の地域は既存の組織に課題がある地域が多く、現状の方法では事業の実施が困難な地域が残っています。そのため、今後は地域の特性に応じた方法での実施を検討することが必要となります。	<b>見直し内容</b> 未実施校区の実情を把握し、その地域特性に応じた実施方法を検討します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	全ての年代の市民	住民が主体となって、地域の健康課題を解決し、健康づくりを実践できる基盤づくりを推進します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	<b>成果の状況評価理由</b>
	「普段、自分は健康だと思う」「まあまあ健康だと思う」と答えた19歳以上の市民の割合 健康づくり実態調査で「普段、自分は健康だと思う」、「まあまあ健康だと思う」と答えた19歳以上の市民をモニタリングします。「地域でGO!GO!健康づくり」により市民が健康づくりに主体的に取組んだり、地域の活動に参加し交流の機会が増えたりすることで市民の主観的な健康観が向上すると考えました。 (最終目標と目標年度)増加(対H23年度:75.2%)・平成29年度		評価年ではありません	%	
	健康づくりや介護予防のために取組んでいることがあった高齢者の割合 高齢者実態調査で「健康づくりや介護予防のために取組んでいることがある」と答えた高齢者をモニタリングします。住民主体の健康づくりが推進できれば、この割合が増加すると考えました。 (最終目標と目標年度)増加(対H22年度:80.0%)・平成26年度		増加	%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 本事業の未実施団体(25団体)の現状と課題を分析し、地域の特性に応じた実施方法を検討します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	<b>活動の状況評価理由</b>
	本事業を実施しているまちづくり協議会の数 市民が主体となって地域の健康課題の解決のために健康づくりに取り組む地域を増やすことを推進します。		114 団体	%	
				%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	介護保険課
<b>事業名</b> 介護支援ボランティア事業					課長名	横山
					施策番号	
<b>事業概要</b>	65歳以上の高齢者が特別養護老人ホームなどの介護保険施設等でボランティア活動を行った場合にポイントを付与し、貯まったポイントを換金又は寄付することができる事業です。					<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<b>コスト</b>	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	
	17,900 千円	千円			3,420 千円	(人件費備考)

【Action】改善		
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 高齢者の社会参加や地域貢献を奨励・支援し、健康増進や生きがいづくりにつなげるために事業を実施していきます。	<b>見直し内容</b> 引き続き事業の普及に取り組んでいきます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 65歳以上の高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) ①健康維持と介護予防、社会参加・地域貢献を通じた生きがいづくり ②介護保険施設等と地域とのつながりの深まりや、施設を利用される方の生活をより豊かにすること		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	介護支援ボランティアの登録者数		1,000 人	%	
	ボランティア活動を行う介護支援ボランティアの登録者数を指標とし、取り組んでいきます。 (最終目標と目標年度) 平成26年度末:1000人				%

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 本事業の周知のため、市政だより・冊子等記事掲載や郵送物のチラシ同封、ボランティア関連団体や高齢者福祉団体等を通じた積極的な広報活動を行い、ボランティア登録を促進します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	事業の案内・周知		事業の案内と周知	%	
	介護保険の被保険者証の送付時に本事業の案内を同封するなどして周知を図ります。				%

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局	
					担当課	人権文化推進課	
市民への人権啓発の推進					課長名	北口	
					施策番号		II - 3 - (1) - ①
事業名	市民への人権啓発の推進					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
事業概要	「人権文化のまちづくり」の実現に向けて、幅広い年齢層の市民を対象に、様々な機会を通じて、人権啓発を推進します。					事業手法	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 人
		69,997 千円	千円			0 千円	係長 人 職員 人
							(人件費備考)

【Action】改善			
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	市民が啓発事業に触れることで人権尊重の意識が高まると考えられるが、すべての市民に届く啓発は難しく、効果測定も難しい。	見直し内容 1人でも多くの市民が事業に参加したり、触れたりすることができるように手法を検討し、より経済性、効率性が高められるように努めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	すべての市民一人ひとり	人権尊重の精神を正しく身に付け、人権を尊重することが日常生活の中で当たり前行動として自然に現することができる状態。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	すべての市民の人権が尊重される社会の実現		すべての市民の人権が尊重される社会の実現	%	
	人権講演会をはじめ、各種事業を継続して実施し、人権問題について考える機会を数多く提供することを通じて、人権尊重の意識を高めていきます。 (最終目標と目標年度)				%

活動計画	どうやって目的を達成するか	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民への広報活動(TVCMの制作・放送)</li> <li>人権週間に伴う人権啓発行事(記念講演会、ふれあいフェスタ、作品募集等)</li> <li>福岡県同和問題啓発強調月間行事(映写会講演会、ポスター制作等)</li> <li>啓発資料の作成提供(啓発情報誌の制作・配布)</li> <li>人権問題視聴覚教材の整備(「明日への伝言板」制作・放送等)</li> <li>人権研修会の開催等</li> </ul>	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	講演会、研修等参加人数		10,000 人	%	
	人権講演会、研修会などの参加を促進することで、人権問題に対する正しい理解を深め、人権を自分自身の課題としてとらえられる市民が増えることにつながるものと認識しています。				%

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局	
		担当課	人権文化推進課	
		課長名	北口	
		施策番号		
		II - 3 - (1) - ①		
事業名	人権の約束事運動の推進			
事業概要	人権に関する身近なテーマを約束事として掲げ、その約束事を地域や職場など団体の中で守っていく市民運動です。団体、企業、施設、学校など所在地が北九州市内であれば参加(無料)できます。また、参加登録団体が実施する人権啓発活動に対しての補助金制度(人権の約束事運動推進活動支援事業)があります。			
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)
		5,000 千円	千円	
		目安の金額	課長	人
		0 千円	係長	人
			職員	人
			(人件費備考)	
			■ 直営 □ 補助金 □ 全部委託 □ 負担金 ■ 一部委託 □ 指定管理 □ その他 ( )	

【Action】改善				
課題	H24年度の評価結果を受けての課題	参加登録は促進されていますが、今後は、登録した約束事の実践を通して、人権尊重の機運を継続して盛り上げていくことが課題です。	見直し内容	積極的な取組を行う参加団体を表彰し、今後の取組への動機付けとするとともに、それを公表することにより他団体の取組を促します。表彰対象を各団体からの自薦に変更し、報告を求めることで、今後の運動推進にも役立てます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民センターを中心とした地域や企業や事業所などの職域	人権の約束事運動への参加をきっかけに、人権尊重の機運が盛り上がり、「人権文化のまちづくり」が推進されること。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	「人権文化のまちづくり」の推進				
	市民一人ひとりが人権尊重の精神を正しく身に付け、人権を尊重することが市民の日常生活の中で当たり前前行動として自然に現すことができる社会をつくることです。 (最終目標と目標年度)			「人権文化のまちづくり」の推進	%
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な取組を行う団体の表彰及び紹介</li> <li>人権関連団体の参加登録促進</li> <li>人権の約束事運動推進活動支援事業(補助金)</li> <li>マスコットキャラクターを活用した人権の約束事運動のPR</li> </ul>	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	人権の約束事運動の参加登録団体数				
	市全域での市民運動とするためには、まずは参加登録団体数を増加させ、少しでも多くの方々に約束事運動に取り組んでいただくことが必要となります。			700団体	%
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
<b>事業名</b> 権利擁護・市民後見促進事業					課長名	野瀬
					施策番号	
<b>事業概要</b>	弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。				<b>事業手法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05人
		7,712 千円	千円		3,075 千円	係長 0.10人 職員 0.20人
					(人件費備考)	

【Action】改善		
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 高齢化の進行や、認知症高齢者数の増加に伴い、第三者後見人の不足が見込まれます。さらに、後見人の担い手として養成研修を行い、安定した成年後見制度の推進を図る必要があります。	<b>見直し内容</b> 引き続き養成研修を行うとともに、研修修了者の活躍の場を確保するため法人後見の補助を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 判断能力が不十分な高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 権利が守られる状態にする。そのために担い手を育成し権利を守るサービスを提供します。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	法人後見受任件数(年度末件数)		維持		
	市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが現状困難な為、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)				%
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民後見人養成数(累計)		増加		
	社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行っていくことで、成年後見制度の担い手を増やしていけるため。				%
				%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
事業名 認知症啓発・早期発見推進事業					課長名	野瀬
					施策番号	
事業概要	「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」の実現のため、認知症に対する理解を深めるための啓発促進事業を行うとともに軽度認知障害対策事業を実施し、認知症の早期発見につながる施策を実施します。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05人
		11,900 千円	千円		3,075 千円	係長 0.10人 職員 0.20人
					(人件費備考)	

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 認知症予防の話と脳の健康度テストは、受講者からも評判のよい事業であるため、より多くの方に参加をしてもらえるよう、市民の方の参加の機会を増やします。	見直し内容 平成25年度からは、各区で年4回実施する定例講座のほかに、自治会・老人クラブなどの団体にも希望があれば出向いて講座を実施する出前講座を新規に行っています。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 市民	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 認知症に関する正しい理解と啓発が進み、軽度認知障害の早期発見・早期対応がなされることで、「認知症になっても安心してその人らしく生き生きと暮らせるまち」を実現します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	認知症予防の話と脳の健康度テスト参加者数		増加		
	より多くの方に参加をしてもらえるよう、市民広報・参加機会の確保を図ります。 (最終目標と目標年度)平成26年度500人				%
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 認知症予防の話と脳の健康度テストについては、引き続き市民の方の参加の機会の確保に努めます。また、認知症啓発月間啓発活動については、認知症についての啓発をすすめるために、今まで参加していなかった団体に参加していただけるよう、参加を働きかけます。市民の方の認知症予防に対する理解が進み、予防活動の広がりを図ります。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	認知症予防の話と脳の健康度テストの実施回数について		増加		
	出前講座の開催など市民の方の参加の機会を増やします。			%	
	街頭啓発活動参加団体数		増加		
	地域社会での取組みを推進するため、街頭啓発活動に今まで参加していなかった団体に参加を働きかけます。			%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
<b>事業名</b> 認知症対策普及・相談・支援事業					課長名	野瀬
					施策番号	
<b>事業概要</b> 認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくりを目指し、認知症を理解して、認知症の方を地域で温かく見守り、支える「認知症サポーター」の養成に取り組みます。また、認知症の本人や家族が抱える不安や悩みなどを気軽に相談できるコールセンターを設置します。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
					<b>コスト</b>	事業費
人件費				3,075 千円		(人件費備考)

【Action】改善		
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 認知症サポーター養成数(累計4万人達成)と認知症コールセンターの相談件数(年間400件超)は順調に推移しており、特に問題はありません。	<b>見直し内容</b> 引き続き目標達成に向けての取り組みを進めます。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民	北九州市を「認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」にするために、認知症を理解して、認知症の方を地域で温かく見守り、支える「認知症サポーター」の養成に取り組むとともに、介護にあたっている家族の精神的・身体的な負担の軽減を図るため、認知症の本人や家族が抱える不安や悩みなどを気軽に相談できる認知症コールセンターを設置します。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	認知症コールセンター相談件数		維持		
	認知症に関する正しい理解と啓発を図り、認知症に関する相談をしやすい環境を整備します。 (最終目標と目標年度) 平成26年度420件			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 認知症サポーター養成講座では、大人だけでなく、中学生や高校生などの若い世代への普及・促進に力を入れて取り組むこととしています。さらに、認知症コールセンターなどの業務を通じ、実際に認知症になった人や家族が安心して暮らしていけるまちの実現に努めていきます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	認知症サポーター養成講座受講者数(累計)		増加		
	北九州市を「認知症高齢者やその家族が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」にするためには、市民に対する認知症の正しい知識・理解の普及が必要です。			%	
	認知症コールセンター相談員研修実施回数		維持		
	認知症コールセンターの相談員として必要な知識の習得のために研修を実施し、相談員としての資質の向上につなげます。			%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
<b>事業名</b> 高齢者の虐待防止事業					課長名	野瀬
					施策番号	
<b>事業概要</b> 判断能力が不十分な高齢者等に、日常的な金銭管理や福祉サービス利用手続きの援助(相談)、また、成年後見制度の利用援助(相談)を行うことにより、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう支援を行います。また、高齢者虐待に対する社会的支援の必要性が非常に高まる中で、相談窓口である地域包括支援センター職員を対象とした研修を毎年実施するなど、高齢者がその人らしく安心して暮らしていくための虐待予防・早期発見・援助に必要な支援を行います。					事業手法 <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
					(人件費備考)	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	人件費	目安の金額	課長 0.05人
		35,600 千円	千円			係長 0.10人

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 虐待対応にあたる職員のレベルアップが必要です。虐待防止についてさらなる市民周知が必要です。	見直し内容 職員への研修内容を見直しながらレベルアップに努めるとともに、市民に対する周知促進を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	対象(誰を、何を) 判断能力が衰えた高齢者や虐待を受けている高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 成年後見制度の利用促進により高齢者の権利・財産を守るとともに、関係機関と連携した虐待対応により高齢者の権利擁護を図ります。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	高齢者虐待防止と権利擁護の推進 地域や関係機関及び介護サービス事業者との連携により、早期発見から迅速かつ適切な対応・見守りまでの、一貫した虐待防止の仕組みを強化します。また、高齢者の権利や財産を守る為、権利擁護の取り組みや成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)			すべての高齢者の権利が尊重され、その人らしく安心して生活できるまちを目指します。	%	
	(最終目標と目標年度)				%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 市民を対象にした虐待防止セミナーや高齢者虐待防止システムの効果的な運営、高齢者の権利擁護の実現のために成年後見利用支援事業のPR、必要に応じて老人福祉法に基づく市長申立てを行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	成年後見制度相談件数 一般社団法人北九州成年後見センター(みと)に委託し、成年後見制度の利用支援(相談)を行い、判断能力が衰えた高齢者等の権利擁護を図ります。		増加	%	
	権利擁護に関する研修会実施回数 地域包括支援センター職員を対象に権利擁護に関する研修を実施することで、各職員のスキルアップを行い高齢者虐待防止や権利擁護の推進に努めます。		維持	%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	高齢者支援課
					課長名	野瀬
					施策番号	
事業名	権利擁護・市民後見促進事業					
事業概要	弁護士・司法書士・社会福祉士などの専門職による第三者後見人が将来不足することに備え、契約能力の低下した認知症高齢者等に対し、福祉サービスの利用調整や日常生活の見守りを中心とした成年後見業務を担う「市民後見人」を養成するとともに、養成した後見人を登録し、後見業務を法人として提供する機関に補助金を交付し、成年後見制度の利用促進を図ります。					事業手法 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05人
		7,712 千円	千円		3,075 千円	係長 0.10人 職員 0.20人
					(人件費備考)	

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 高齢化の進行や、認知症高齢者数の増加に伴い、第三者後見人の不足が見込まれます。さらに、後見人の担い手として養成研修を行い、安定した成年後見制度の推進を図る必要があります。	見直し内容 引き続き養成研修を行うとともに、研修修了者の活躍の場を確保するため法人後見の補助を行います。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を) 判断能力が不十分な高齢者	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 権利が守られる状態にする。そのために担い手を育成し権利を守るサービスを提供します。		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	法人後見受任件数(年度末件数)		維持		
	市民後見人養成研修の修了者が第三者後見人として単独で後見業務を受任することが現状困難な為、北九州市社会福祉協議会が市民後見人の受け皿となって法人後見業務を行い、成年後見制度の利用を促進します。 (最終目標と目標年度)				%
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか 市民後見人養成研修を実施するとともに、家庭裁判所等の関係機関と連携を強め、市民後見人を活用した法人後見業務を提供します。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	市民後見人養成数(累計)		増加		
	社会貢献活動に熱意を抱く市民を対象に市民後見人養成研修を行っていくことで、成年後見制度の担い手を増やしていけるため。				%
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>						担当局	保健福祉局
						担当課	障害福祉課
<b>事業名</b> 障害者差別解消法推進事業						課長名	坂元
						施策番号	
<b>事業概要</b> 障害者差別解消法施行に向け、体制の整備と啓発を行います。						<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
						(人件費備考)	
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 1.00人
		1,500 千円	千円			29,000 千円	係長 1.00人 職員 1.00人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 障害を理由とする差別の解消が必要です。	<b>見直し内容</b>	

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を) 市民、事業者及び行政	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか) 平成25年6月19日に成立した「障害者差別解消法」を広く啓発するとともに、平成28年4月1日の法施行に向け、「対応要領」の策定等の体制整備を実施することで、全ての市民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指します。		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	市民等における「障害者差別解消法」に対する認識を深めます		「障害者差別解消法」への認識の向上	%	
	市民等における「障害者差別解消法」に対する認識が深まっていることを数値で表すことは困難です。今後、国が示す「基本方針」等の内容を精査しつつ、成果を検証できる客観的指標について検討します。 (最終目標と目標年度)平成28年度:法により要請される体制の整備				%

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 「障害者差別解消法」により義務あるいは努力義務と定められている各種体制の整備(対応要領の策定、相談・紛争解決の体制の整備、障害者差別解消支援地域協議会の設置など)を推進します。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	「対応要領」策定、相談・紛争防止のための体制整備、障害者差別解消支援地域協議会の設置のための着手・準備		-	%	
	平成28年4月1日の「障害者差別解消法」施行に向けて、地方自治体に課せられた上記体制等の整備に着手し、準備を進めます。			%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点  <b>【経済性】</b> (同成果を低コストで) <b>【効率性】</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート (平成 26 年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局
					担当課	総務課
<b>事業名</b> 戦没者等慰霊事業					課長名	倉知
					施策番号	
<b>事業概要</b> 市主催の戦没者追悼式(旧5市の単位で5ヶ所)、海外における福岡県出身戦没者の慰霊巡拝、市内5ヶ所に設置されている忠霊塔等の維持管理、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典等による戦没者等の慰霊に関する事業。					<b>事業手法</b> <input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05人
		7,384 千円	千円		3,075 千円	係長 0.10人 職員 0.20人
					(人件費備考)	

【Action】改善		
課題	H24年度の評価結果を受けての課題 先の大戦によって亡くなられた方々、ご遺族の方々などに対する援護・慰霊等、関係団体との連携を踏まえて、今後も継続して事業を実施していくことが課題であると考えます。	<b>見直し内容</b> 戦没者等の慰霊に対する遺族の想いは大きく、また、次世代への継承のため、事業の継続した取り組みが求められます。事業の質及び予算の規模について現状を維持します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
		すべての市民が戦没者や原爆の犠牲者に対する追悼の心を持ち、また援護していく必要性を感じ、併せて平和の尊さを理解し共有すること。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	すべての市民が戦没者や原爆の犠牲者に対する追悼の心を持ち、また援護していく必要性を感じ、併せて平和の尊さを理解し共有すること。		事業の質を維持し、次世代への継承のため継続的に実施します。		
	市主催の戦没者追悼式や原爆被害者慰霊平和祈念式典等の追悼・慰霊行事や、戦傷病者や遺族に対する援護事業を継続して実施します。 (最終目標と目標年度) 毎年度、継続した取り組みを行います。			%	
	(最終目標と目標年度)			%	

活動計画	どうやって目的を達成するか	平成26年度は「戦没者追悼式」を市内5ヶ所で開催し、また、8月9日に「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」を行います。 また、海外における福岡県出身戦没者の慰霊巡拝に職員を派遣します。		活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	戦没者追悼式や原爆犠牲者慰霊平和祈念式典、戦没者の慰霊巡拝等の実施		継続的に実施します。		
	戦没者追悼式を市内5ヶ所で主催する他、原爆犠牲者慰霊平和祈念式典での慰霊等を行い、多くの方の参列を受け入れます。また、海外における戦没者を慰霊するため、慰霊巡拝に職員を派遣します。			%	
				%	

【Check】評価(分析)	
分析及び課題の整理	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

## PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

		担当局	保健福祉局		
		担当課	総務課		
		課長名	岩佐		
<b>事業名</b>	地域協働による買い物支援モデル事業	施策番号			
		Ⅲ - 1 - (1) - ①			
<b>事業概要</b>	高齢化や都市化が進む地域の現状を踏まえ、高齢者などが安心して買い物できる環境づくりを進めるため、民間事業者と地域をつなぐ仕組みづくりや、地域住民が主体となった買い物支援活動の立ち上げ支援に取り組み、地域社会の協働による買い物支援のネットワークの構築を図ります。				
<b>コスト</b>	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	目安の金額	課長 0.05人
	6,000 千円	千円		7,075 千円	係長 0.50人 職員 0.20人
		人件費	(人件費備考)		

<input checked="" type="checkbox"/> 直営	<input type="checkbox"/> 補助金
<input type="checkbox"/> 全部委託	<input type="checkbox"/> 負担金
<input checked="" type="checkbox"/> 一部委託	<input type="checkbox"/> 指定管理
<input type="checkbox"/> その他	

### 【Action】改善

<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題 少子高齢化や都市化の進行などに伴い、日々の買い物に不安を抱えた「買い物弱者」の課題が地域に広がっています。こうした新たなニーズに対応して、移動販売や宅配などの民間サービスや、地域住民が主体となった朝市などの取り組みが進められていますが、地域と事業者の関係づくり、安定した収益の確保、担い手の高齢化等の課題を抱えています。	<b>見直し内容</b>	平成25年度に実施した、「高齢者の買い物環境に関する基礎調査」(買い物環境マップの作成等)の結果や、各区のモデル地区(7か所)におけるワークショップ・実態調査などの取組みを踏まえ、買い物に困難を抱えた地域と買い物支援に取り組む民間事業者等をつなぐ仕組みづくりや、地域協働による買い物支援活動の立ち上げ支援等に取り組めます。
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【Plan】計画

### 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	<b>対象(誰を、何を)</b> 高齢化が進み、加えて身近に生鮮食品などの店舗がなく、日々の買い物に困難を抱える地域 移動販売や宅配など、買い物支援に取り組む民間事業者	<b>目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)</b> 買い物支援への意欲ある民間事業者と、地域住民、地域活動団体などの協力のもと、地域ニーズに対応した買い物支援の取り組みの定着を目指します。また、買い物支援の取り組みを通して、高齢者の見守り・交流や地域コミュニティの活性化、新たな協働による生活支援のネットワーク形成を目指します。	<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方) 地域協働による買い物支援の取り組みの推進 地域住民、民間事業者、行政など、地域社会の協働による買い物支援の取り組みを広げていくことにより、高齢者の買い物への負担感や不安を解消し、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。 (最終目標と目標年度)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
			地域協働による買い物支援の取り組みの推進	%	
				%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか 事業者と地域を「つなぐ」仕組みとして、買い物支援に関する相談体制の整備、ホームページを活用した民間及び地域情報の集約と発信、関係者が広く参加した(仮称)買い物応援ネットワーク会議の開催に取り組みます。あわせて、地域協働による買い物支援の取り組みを広げるため、住民参加によるワークショップの成果を踏まえた地域活動の立ち上げ支援に取り組めます。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明) (仮称)買い物応援ネットワーク会議 参加登録事業者の増加 買い物支援の取り組みを地域に広げるため、平成25年度末に立ち上げる(仮称)買い物応援ネットワーク会議の参加登録事業者の増加を目指します。 モデル地区におけるワークショップ、買い物支援活動の立ち上げ支援 地域住民が主体となった買い物支援の取り組みを進めるため、平成25年度のモデル地区(7か所)における新たな取り組みの立ち上げ支援(社会実験等)に取り組めます。	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
			増加	%	
			7 地区	%	

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点	
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点	

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局	
					担当課	障害福祉課	
<b>事業名</b> 障害者スポーツ振興事業					課長名	坂元	
					施策番号		Ⅲ - 2 - (3) - ①
<b>事業概要</b>	障害者のスポーツ大会や、各種スポーツ教室等を開催、障害者団体等によるスポーツ大会等への支援を行います。					<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他	
						(人件費備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員・ボランティアも関わっています。	
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.04人
		51,360 千円	千円			3,647 千円	係長 0.13人 職員 0.25人

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	当事業は施策に対する有効性は高く、「社会参加の促進」を図っていく上で重要な事業です。今後も、より参加しやすい大会や教室になるよう工夫していく必要があります。	<b>見直し内容</b>
			今後もさらなる社会参加の促進に向けて事業を継続し、より参加しやすい大会や教室になるよう工夫します。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価	
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	障害のある方	スポーツを通じた社会参加の促進			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由
	障害者スポーツ教室等参加者数		増加		
	教室参加者の特性を十分に考慮し、安全かつ安心して参加できる教室になるように努めます。 (最終目標と目標年度)			%	
	北九州市障害者スポーツ大会参加者数		増加		
	大会参加者が、安全かつ安心して参加できる大会となるように努めます。 (最終目標と目標年度)			%	

<b>活動計画</b>	どうやって目的を達成するか	北九州市障害者スポーツ大会や各種の障害者スポーツ教室を開催するとともに、障害者団体等によるスポーツ大会の開催や参加への支援を行います。		<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由
	障害者スポーツ教室等開催回数		112 回		
	教室参加者の特性を十分に考慮し、安全かつ安心して参加できるスポーツ教室を開催します。			%	
	北九州市障害者スポーツ大会開催		開催		
	障害のある方が、安全かつ安心して参加できる大会を開催します。			%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	<b>「経済性」</b> (同成果を低コストで) <b>「効率性」</b> (同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# P D C A チェックシート (平成 26 年度実績評価)

		担当局	保健福祉局	
		担当課	介護保険課	
		課長名	横山	
事業名	介護保険適正化事業(介護人材の育成及び確保)			施策番号
				IV - 3 - (1) - ③
事業概要	介護人材の不足に対応するため、介護の資格を持ちながら就労していない潜在的有資格者を対象に再就労のための研修や、介護に特化した求人求職面談会を開催することにより、介護人材の確保を図ります。			事業手法
				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他 ( )
コスト	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)
		19,500 千円	千円	人件費
		目安の金額		課長 0.04 人
		2,960 千円		係長 0.10 人
				職員 0.20 人
(人件費備考)				

## 【Action】改善

課題	H24年度の評価結果を受けての課題	見直し内容
	平成24年度の申込者数は平成23年度と同程度でしたが、業務の都合による当日キャンセルなどにより申込者数に対する受講率が減少しています。今後は、申込者の受講率の改善を目的に、事業主や管理者に対して、従事者の質の向上のため、研修参加に協力していただくよう働きかけていきます。 介護人材の就労支援における就職率については、ハローワークにおける一般職業紹介の就職率を上回ることができました。また、研修においては、申込者のキャンセルなどにより受講定員が目標に達していないため、今後は各種の求人求職面談会や就職説明会などの様々な機会を通じ、研修への積極的な参加について働きかけていきます。	高齢化の進展に伴い、介護サービスのニーズも多様化しているため、引き続き、介護サービスの質の向上を図ることを目的として、より充実した内容で介護サービス従事者等に対する研修を実施していきたいと考えています。 介護人材の確保は今後も重要な課題であるため、当該事業により地域の有資格者が福祉事業に就労できるよう支援を行います。

## 【Plan】計画

## 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)	成果の状況	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	介護サービス従事者及び介護人材	介護サービス従事者を対象に、ホームヘルパーやケアマネジャー等の職種別専門研修や全てのサービス事業者に必要な知識・技能を取得するための基礎的研修事業など多様なテーマの研修を実施し、介護サービスの質の向上とスキルアップを図ります。 介護の人材不足に対応するため、介護福祉士やホームヘルパー等の資格を有しながら介護職に就労していない潜在的有資格者を対象に、再び介護サービスに従事してもらえよう再就労のための研修や施設見学など必要な支援を行うなど介護人材の確保を図ります。	25年度実績 26年度目標	26年度実績(達成率) 成果の状況評価理由
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)			
	介護サービス従事者研修受講者数 介護サービスの質の向上のために、介護サービス従事者に職種別に応じて様々な研修を行い、できるだけ多くの介護事業者に受講してもらうことが必要であるため、参加者数を指標としました。 (最終目標と目標年度)4000人 平成26年度		4,000 人	%
	参加者の就職率 潜在的有資格者就労支援事業において、参加者のうち就職に結びついた人の割合を、ハローワークにおける一般職業紹介における新規求人に対する就職率約30%程度と設定しました。(平成23年度29.7%) (最終目標と目標年度)就職率30% 平成26年度		30 %	%

活動計画	介護職員向けの医学講座、権利擁護等の研修を実施し介護の質の向上を目指します。また、介護職員の定着率を高めるため、初任者、中堅者、指導者、管理者、経営者の階層別にスキルアップ、メンタルタフネスについての研修を行います。 研修の実施時期を年間2回(9月・2月)行われている「福祉の職場求人・求職面談会」の前後に開催することにより、より多くの求職者の再就労が図れるよう実施します。また、研修参加者は福祉人材バンクに登録し、求人情報提供など就労につながる支援を行います。	活動の状況	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
活動指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	25年度実績 26年度目標	26年度実績(達成率) 活動の状況評価理由
	研修会の回数 介護サービス事業者では、事業所の規模や経験などから人材育成のための教育・研修の時間が十分に取れない事業者が比較的多い。このため、研修への参加意欲を促すため、様々なテーマの研修を企画実施した回数を指標としました。 潜在的有資格者就労支援セミナー参加者数 資格を有しながら就労していない潜在的有資格者の掘り起こしを行うため、再就労のためのセミナーへの参加者数を活動指標としています。		単年度目標なし 120 人

## 【】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点
	「経済性」(同成果を低コストで) 「効率性」(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点

# PDCAチェックシート(平成26年度実績評価)

<b>事業概要</b>					担当局	保健福祉局	
					担当課	障害福祉課	
<b>事業名</b> 障害者就労支援事業					課長名	坂元	
					施策番号		IV - 3 - (2) - ③
<b>事業概要</b>	障害者しごとサポートセンターを拠点に、障害者本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓や企業の意識啓発及び就労移行支援に対する効果的な支援への取組みを通じて、障害者の雇用促進を目指します。				<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 負担金 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他		
					( )		
<b>コスト</b>	事業費	26年度当初予算額	26年度執行額	(事業費備考)	人件費	目安の金額	課長 0.03人
		32,298 千円	千円			3,095 千円	係長 0.20人 職員 0.10人
					(人件費備考) 直接関わる職員以外に、多くの職員も関わっています。		

【Action】改善			
<b>課題</b>	H24年度の評価結果を受けての課題	成果指標とした「障害者しごとサポートセンター利用者の就職件数」及び「福祉施設から一般就労への移行件数」について、どちらも増加し、大変順調という評価です。ただし、平成25年4月から障害者の法定雇用率が引き上げられたことなどから障害者に対する就業支援や職場定着支援へのニーズは、障害者のみならず、雇用主からも高まっており、これに応えるための事業内容が必要と思われます。	<b>見直し内容</b> 障害者しごとサポートセンターを拠点とする体制を継続し、障害者の就職支援だけでなく職場定着支援も継続することで、市民のニーズに応えます。また、相談者への支援のみならず、特別支援学校生やその保護者及び就労移行支援事業所利用者を対象とした企業見学会などの各種企画を実施し、支援対象者への早期の就労支援体制の構築を図ります。

【Plan】計画				【Do】実施 → 【Check】評価		
<b>目的</b>	対象(誰を、何を)	目指す状態(どのような状態にしたいか、どのような成果を実現したいか)		<b>成果の状況</b>	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	就労を希望する障害者とその支援者、特別支援学校生とその保護者、および雇用主	障害者しごとサポートセンターを拠点に、障害者本人の能力や特性に応じたきめ細やかな対応を行うとともに、新たな職場開拓や企業(雇用主)の意識啓発、及び就労移行支援事業所等が実施する就労支援に対する効果的な支援への取組みを通じて、障害者の雇用促進を目指します。				
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	成果の状況評価理由	
	障害者しごとサポートセンター利用者の就職人数		増加			
	支援対象となる障害者が、職業準備訓練や職場実習あつせん、職場定着支援などの障害者しごとサポートセンター提供のサービス利用者を通じて、実際に企業に就職した数。 (最終目標と目標年度) 平成29年度:90人	人			%	
	福祉施設から一般就労への移行人数		増加			
	障害者の就労を目指す就労移行支援事業所等の利用者が、実際に企業へ就職した数。 (最終目標と目標年度) 平成26年度:48人	人			%	

<b>活動計画</b>	障害者が地域でいきいきと自立した生活を送れるよう、「社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会」に運営委託している障害者しごとサポートセンターを拠点として、就職を希望する障害者に対し、指導や助言、職業訓練や職場実習の調整・あつせん、能力や適性に応じた職業紹介の調整などの支援を行うとともに、就職後の職場定着支援や新たな職場の開拓を行うほか、企業の障害者雇用に対する理解の進展を図ります。	<b>活動の状況</b>	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	25年度実績	26年度目標	26年度実績(達成率)	活動の状況評価理由	
	相談・支援件数		増加			
	窓口に来所した登録者の相談受付や、会社面接や区役所・ハローワーク等公共機関への同行、家庭訪問、障害者が就職した会社を訪問しての定着支援などの件数。				%	
	職業準備訓練および職場実習のあつせん件数		増加		%	
	継続および新規でしごとサポートセンターに登録している障害者に、職業準備訓練や職場実習をあつせんした件数。				%	

【Check】評価(分析)	
<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 ※事業手法の有効性、外部要因などの視点</p> <p>【経済性】(同成果を低コストで) 【効率性】(同コストで高成果を) の分析 ※民間活力導入の視点</p>